



## **Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS 基本コマンド リファレンス**

リリース 5.0(3)x

初版発行日：2011 年 4 月

最終更新日：2012 年 5 月

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意**  
([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/))をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知られていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

*Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS 基本コマンド リファレンス*  
© 2011–2012 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

Copyright © 2011–2012, シスコシステムズ合同会社.  
All rights reserved.



## CONTENTS

はじめに	vii
対象読者	vii
表記法	vii
関連資料	viii
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	ix
新機能および変更された機能に関する情報	xi
基本的なシステム コマンド	FND-1
banner motd	FND-2
boot	FND-4
cd	FND-6
clear cli history	FND-7
clear cores	FND-8
clear debug-logfile	FND-9
clear install failure-reason	FND-10
clear license	FND-11
clear user	FND-12
cli var name	FND-13
clock set	FND-15
clock summer-time	FND-16
clock timezone	FND-18
configure session	FND-19
configure terminal	FND-20
copy	FND-21
copy running-config startup-config	FND-25
databits	FND-26
debug logfile	FND-27
debug logging	FND-28
delete	FND-29
dir	FND-31
echo	FND-33

[end](#) FND-34  
[exec-timeout](#) FND-35  
[exit \(EXEC\)](#) FND-37  
[exit \(グローバル\)](#) FND-38  
[feature interface-vlan](#) FND-39  
[feature lacp](#) FND-40  
[feature uddl](#) FND-41  
[find](#) FND-42  
[format](#) FND-43  
[gunzip](#) FND-44  
[gzip](#) FND-45  
[hostname](#) FND-47  
[install all](#) FND-48  
[install license](#) FND-51  
[line console](#) FND-53  
[line vty](#) FND-54  
[modem in](#) FND-55  
[modem init-string](#) FND-56  
[modem set-string user-input](#) FND-58  
[move](#) FND-59  
[parity](#) FND-61  
[ping](#) FND-62  
[ping multicast](#) FND-64  
[ping6](#) FND-66  
[reload](#) FND-68  
[rmdir](#) FND-69  
[run-script](#) FND-70  
[save](#) FND-72  
[send](#) FND-73  
[setup](#) FND-74  
[session-limit](#) FND-75  
[show banner motd](#) FND-76  
[show boot](#) FND-77  
[show cli alias](#) FND-78  
[show cli history](#) FND-79

show cli variables	FND-81
show clock	FND-82
show configuration session	FND-83
show copyright	FND-84
show debug logfile	FND-85
show environment	FND-86
show feature	FND-88
show file	FND-90
show hardware internal cpu-mac	FND-92
show hardware internal pci	FND-94
show hostname	FND-95
show incompatibility system	FND-96
show install all	FND-97
show inventory	FND-98
show license	FND-99
show license host-id	FND-101
show license usage	FND-102
show line	FND-104
show module	FND-106
show processes	FND-108
show processes cpu	FND-110
show processes log	FND-112
show processes memory	FND-114
show running-config	FND-116
show running-config diff	FND-118
show sprom	FND-120
show startup-config	FND-123
show switchname	FND-125
show system cores	FND-126
show system reset-reason	FND-127
show system resources	FND-129
show system uptime	FND-130
show tech-support	FND-131
show terminal	FND-134
show version	FND-135

sleep	FND-137
slot	FND-138
speed	FND-140
stopbits	FND-141
switchname	FND-142
system cores	FND-143
system startup-config unlock	FND-144
tail	FND-145
terminal length	FND-147
terminal session-timeout	FND-148
terminal terminal-type	FND-149
terminal width	FND-150
traceroute	FND-151
traceroute6	FND-152
update license	FND-153
write erase	FND-154



## はじめに

ここでは、Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS 基本コマンドリファレンスの対象読者、構成、および表記法について説明します。また、関連マニュアルの入手方法についても説明します。

この前書きは、次の項で構成されています。

- 「対象読者」 (P.vii)
- 「表記法」 (P.vii)
- 「関連資料」 (P.viii)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.ix)

## 対象読者

このマニュアルは、Cisco Nexus シリーズ スイッチの設定と保守を行う経験豊富なネットワーク管理者を対象としています。

## 表記法

コマンドの説明では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
[ x   y   z ]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。

出力例では、次の表記法を使用しています。

screen フォント	スイッチに表示される端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。

イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。
[ ]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。



(注)

「注釈」を意味します。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

## 関連資料

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチのマニュアルは、次の URL で入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/tsd_products_support_series_home.html)

ドキュメンテーション セットは次のカテゴリに分けられます。

### リリース ノート

リリース ノートは、次の URL で入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_release_notes_list.html)

### インストール ガイドおよびアップグレード ガイド

インストール ガイドとアップグレード ガイドは、次の URL で入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod\\_installation\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_installation_guides_list.html)

### コマンド リファレンス

コマンド リファレンスは、次の URL で入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod\\_command\\_reference\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_command_reference_list.html)

### テクニカル リファレンス

テクニカル リファレンスは、次の URL で入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod\\_technical\\_reference\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_technical_reference_list.html)

### コンフィギュレーション

コンフィギュレーション ガイドは、次の URL で入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/products\\_installation\\_and\\_configuration\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/products_installation_and_configuration_guides_list.html)



### エラー メッセージおよびシステム メッセージ

システム メッセージ リファレンス ガイドは、次の URL で入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/products\\_system\\_message\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/products_system_message_guides_list.html)

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。





## 新機能および変更された機能に関する情報

この章では、『Cisco Nexus 3000 シリーズ NX-OS 基本コマンドリファレンス』の新機能および変更された機能に関するリリース固有の情報を示します。このマニュアルの最新バージョンは、次のシスコ Web サイトから入手できます。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/tsd_products_support_series_home.html)

この Cisco NX-OS リリースに関する詳細は、次のシスコ Web サイトで入手できる『Cisco Nexus 3000 Series Switch Release Notes』を参照してください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod\\_release\\_notes\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_release_notes_list.html)

表 1 には、Cisco NX-OS Release 5.x で追加または変更された機能の概要と参照先が記載されています。

表 1 リリース 5.x の新機能と変更点

機能	説明	変更されたリリース	参照先
ping の機能拡張	<p><b>ping</b> コマンドは、親インターフェイスおよびマルチキャスト アドレス グループを含めるように拡張されました。</p> <p>次のコマンドがこのリリースに追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>ping multicast</b></li></ul> <p>次のコマンドがこのリリースで更新されました。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>ping</b></li><li>• <b>ping6</b></li></ul>	5.0(3)U2(1)	<a href="#">ping</a> <a href="#">ping multicast</a> <a href="#">ping6</a>
基本的なシステム コマンド	キックスタートおよびシステム イメージのインストール、ライセンスのインストールまたは更新、スイッチ、セッションとセッション制限、および端末のホスト名の設定、ファイルのコピー、他のスイッチへのネットワーク接続の決定などを行う基本的なシステム コマンドを使用できます。	5.0(3)U1(1)	「基本的なシステム コマンド」





## 基本的なシステム コマンド

---

この章では、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチで使用可能な基本的な Cisco NX-OS システム コマンドについて説明します。これらのコマンドを使用して、スイッチをナビゲートおよび制御できます。

# banner motd

ユーザが Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチにログインしたときに表示される Message-of-The-Day (MOTD) バナーを設定するには、**banner motd** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**banner motd delimiter message delimiter**

**no banner motd**

## 構文の説明

<i>delimiter</i>	デリミタ文字。メッセージの最初と最後を示します。メッセージ内では使用しないでください。デリミタとして " または % を使用しないでください。空白文字は機能しません。
<i>message</i>	メッセージテキスト。テキストは英数字で入力し、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含めることができます。デリミタとして選択した文字は含めないでください。テキストは、最大 80 文字の長さで、40 行以内で指定します。

## コマンドデフォルト

デフォルトの MOTD 文字列は「Nexus 3000 Switch」です。

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

複数行の MOTD バナーを作成する場合は、デリミタを入力する前に Enter を押して改行します。40 行以内でテキストを入力できます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、1 行の MOTD バナーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# banner motd #Unauthorized access to this device is prohibited!#
switch(config)#
```

次に、複数行の MOTD バナーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# banner motd #Welcome Authorized Users Unauthorized access prohibited!#
switch(config)#
```

次に、MOTD バナーをデフォルトの設定に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no banner motd
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show banner motd</code>	MOTD バナーを表示します。

# boot

Cisco Nexus 3000 シリーズ キックスタートまたはシステム ソフトウェア イメージのブート変数を設定するには、**boot** コマンドを使用します。ブート変数をクリアするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
boot {kickstart | system} [bootflash:] [//server/] [directory] filename
```

```
no boot {kickstart | system}
```

## 構文の説明

<b>kickstart</b>	キックスタート イメージを設定します。
<b>system</b>	システム イメージを設定します。
<b>bootflash:</b>	(任意) ブートフラッシュ ファイル システムの名前を指定します。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <i>///</i> 、 <i>//module-1/</i> 、 <i>//sup-1/</i> 、 <i>//sup-active/</i> または <i>//sup-local/</i> です。2 個のスラッシュ ( <i>//</i> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	キックスタート イメージまたはシステム イメージのファイル名を指定します。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

*bootflash://server/directory/filename* 文字列にはスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、起動時にブート変数を使用してイメージをロードします。リロードする前に、スイッチに正しいイメージをコピーする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、システムのブート変数を設定する例を示します。

```
switch(config)# boot system bootflash:n3000-uk9.5.0.3.U1.1.bin
```



次に、キックスタートのブート変数を設定する例を示します。

```
switch(config)# boot kickstart bootflash:n3000-uk9-kickstart.5.0.3.U1.1.bin
```

次に、システムのブート変数をクリアする例を示します。

```
switch(config)# no boot system
```

次に、キックスタートのブート変数をクリアする例を示します。

```
switch(config)# no boot kickstart
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy</b>	ファイルをコピーします。
<b>show boot</b>	ブート変数のコンフィギュレーション情報を表示します。

# cd

デバイス ファイル システムの現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

```
cd [filesystem:] [//server/] directory
```

## 構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	変更先ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、現在のファイル システム上の現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd my-scripts
```

次に、別のファイル システム上の現在の作業ディレクトリを変更する例を示します。

```
switch# cd volatile:
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

# clear cli history

コマンドの履歴をクリアするには、clear cli history コマンドを使用します。

## clear cli history

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

コマンドライン インターフェイス (CLI) で入力したコマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、コマンドの履歴をクリアする例を示します。

```
switch# clear cli history
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show cli history</b>	コマンドの履歴を表示します。

# clear cores

コア ファイルをクリアするには、**clear cores** コマンドを使用します。

## clear cores

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

コア ファイルに関する情報を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、コア ファイルをクリアする例を示します。

```
switch# clear cores
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show system cores</b>	コア ファイル名を表示します。
<b>system cores</b>	コア ファイル名を設定します。

# clear debug-logfile

デバッグ ログ ファイルの内容をクリアするには、**clear debug-logfile** コマンドを使用します。

**clear debug-logfile** *filename*

構文の説明	<i>filename</i>	クリアするデバッグ ログ ファイルの名前。
-------	-----------------	-----------------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
------------	-------------------------

例	次に、デバッグ ログ ファイルをクリアする例を示します。 <pre>switch# clear debug-logfile syslogd_debugs</pre>
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>debug logfile</b>	デバッグ ログ ファイルを設定します。
	<b>debug logging</b>	デバッグ ログ ファイルをイネーブルにします。
	<b>show debug logfile</b>	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

# clear install failure-reason

ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアするには、**clear install failure-reason** コマンドを使用します。

## clear install failure-reason

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、ソフトウェアをインストールできなかった理由をクリアする例を示します。

```
switch# clear install failure-reason
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
show install all	ソフトウェア インストールのステータス情報を表示します。

# clear license

ライセンスをアンインストールするには、**clear license** コマンドを使用します。

**clear license** *filename*

## 構文の説明

<i>filename</i>	アンインストールするライセンス ファイルの名前。
-----------------	--------------------------

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、特定のライセンスをアンインストールする例を示します。

```
switch# clear license fm.lic
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license</b>	ライセンス情報を表示します。

# clear user

特定のユーザをログアウトさせるには、**clear user** コマンドを使用します。

**clear user** *username*

## 構文の説明

<i>username</i>	ログアウトさせるユーザの名前。
-----------------	-----------------

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、特定のユーザをログアウトさせる例を示します。

```
switch# clear user admin
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show users</b>	現在、スイッチにログインしているユーザを表示します。



# cli var name

ターミナルセッションのコマンドライン インターフェイス (CLI) 変数を定義するには、**cli var name** コマンドを使用します。CLI 変数を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**cli var name** *variable-name* *variable-text*

**no cli var name** *variable-name*

## 構文の説明

<i>variable-name</i>	変数の名前。名前は、最大 31 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<i>variable-text</i>	変数のテキスト。テキストは、最大 200 文字の長さの英数字で、スペースを含むことができます。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

次の構文を使用して CLI 変数を参照できます。

```
$(variable-name)
```

次のインスタンスに変数を使用できます。

- コマンド スクリプト
- ファイル名

変数の定義内で、別の変数を参照することはできません。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、TIMESTAMP という定義済みの変数を提供しており、これを使用して時刻を挿入できます。TIMESTAMP CLI 変数は、変更することも削除することもできません。

CLI 変数の定義は変更できません。変更する場合は、変数を削除した後に、新しい定義で再作成する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、CLI 変数を定義する例を示します。

```
switch# cli var name testvar interface ethernet 1/3
```

次に、CLI 変数を参照する例を示します。

```
switch# show $(testvar)
```

## ■ cli var name

次に、TIMESTAMP 変数を参照する例を示します。

```
switch# copy running-config > bootflash:run-config-$(TIMESTAMP).cnfg
```

次に、CLI 変数を削除する例を示します。

```
switch# cli no var name testvar
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>run-script</code>	コマンドスクリプトを実行します。
<code>show cli variables</code>	CLI 変数を表示します。

# clock set

手動で Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチのクロックを設定するには、**clock set** コマンドを使用します。

**clock set** *time day month year*

構文の説明		
	<i>time</i>	時刻。形式は、 <i>HH:MM:SS</i> です。
	<i>day</i>	日。指定できる範囲は 1 ~ 31 です。
	<i>month</i>	月。有効な値は、 <b>January</b> 、 <b>February</b> 、 <b>March</b> 、 <b>April</b> 、 <b>May</b> 、 <b>June</b> 、 <b>July</b> 、 <b>August</b> 、 <b>September</b> 、 <b>October</b> 、 <b>November</b> および <b>December</b> です。
	<i>year</i>	年。有効な範囲は 2000 ~ 2030 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、NTP サーバなどの外部のクロック ソースとスイッチを同期できないときに使用します。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、手動でクロックを設定する例を示します。  

```
switch# clock set 12:00:00 04 July 2008
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show clock</b>	クロックの時刻を表示します。

# clock summer-time

サマータイム（夏時間）オフセットを設定するには、**clock summer-time** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**clock summer-time** *zone-name start-week start-day start-month start-time end-week end-day end-month end-time offset-minutes*

**no clock summer-time**

## 構文の説明

<i>zone-name</i>	タイムゾーンの文字列。タイムゾーン文字列は 3 文字の文字列です。
<i>start-week</i>	サマータイム オフセットを開始する週。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>start-day</i>	サマータイム オフセットを開始する曜日。有効な値は、 <b>Monday</b> 、 <b>Tuesday</b> 、 <b>Wednesday</b> 、 <b>Thursday</b> 、 <b>Friday</b> 、 <b>Saturday</b> または <b>Sunday</b> です。
<i>start-month</i>	サマータイム オフセットを開始する月。有効な値は、 <b>January</b> 、 <b>February</b> 、 <b>March</b> 、 <b>April</b> 、 <b>May</b> 、 <b>June</b> 、 <b>July</b> 、 <b>August</b> 、 <b>September</b> 、 <b>October</b> 、 <b>November</b> および <b>December</b> です。
<i>start-time</i>	サマータイム オフセットを開始する時刻。形式は、 <i>HH:MM</i> です。
<i>end-week</i>	サマータイム オフセットを終了する週。指定できる範囲は 1 ~ 5 です。
<i>end-day</i>	サマータイム オフセットを終了する曜日。有効な値は、 <b>Monday</b> 、 <b>Tuesday</b> 、 <b>Wednesday</b> 、 <b>Thursday</b> 、 <b>Friday</b> 、 <b>Saturday</b> または <b>Sunday</b> です。
<i>end-month</i>	サマータイム オフセットを終了する月。有効な値は、 <b>January</b> 、 <b>February</b> 、 <b>March</b> 、 <b>April</b> 、 <b>May</b> 、 <b>June</b> 、 <b>July</b> 、 <b>August</b> 、 <b>September</b> 、 <b>October</b> 、 <b>November</b> および <b>December</b> です。
<i>end-time</i>	サマータイム オフセットを終了する時刻。形式は、 <i>HH:MM</i> です。
<i>offset-minutes</i>	分単位でのクロックのオフセット。有効な範囲は 1 ~ 1440 です。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、サマータイムまたは夏時間のオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock summer-time PDT 1 Sunday March 02:00 5 Sunday November 02:00 60
```

次に、サマータイムをデフォルト オフセットに戻す例を示します。

```
switch(config)# no clock summer-time
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show clock</b>	クロックのサマータイム オフセット設定を表示します。

# clock timezone

Coordinated Universal Time (UTC; 協定世界時) からのタイムゾーン オフセットを設定するには、**clock timezone** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
clock timezone zone-name offset-hours offset-minutes
```

```
no clock timezone
```

## 構文の説明

<i>zone-name</i>	ゾーン名。ゾーン名は、タイムゾーンの略語 (PST、EST など) である 3 文字の文字列です。
<i>offset-hours</i>	UTC からのオフセット時間数。有効な範囲は -23 ~ 23 です。
<i>offset-minutes</i>	UTC からのオフセット分数。有効な範囲は 0 ~ 59 です。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、デバイスのクロックに UTC からのオフセットを設定するときに使用します。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、UTC からのタイムゾーンオフセットを設定する例を示します。

```
switch(config)# clock timezone PST -8 0
```

次に、タイムゾーンオフセットをデフォルトに戻す例を示します。

```
switch# no clock timezone
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show clock</b>	クロックの時刻を表示します。

# configure session

コンフィギュレーション セッションを作成または修正するには、**configure session** コマンドを使用します。

**configure session** *name*

構文の説明	<i>name</i>	セッションの名前。名前は、最大 63 文字の英数字で指定します。大文字と小文字は区別されます。
-------	-------------	---

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
------------	-------------------------

例	次に、コンフィギュレーション セッションを作成する例を示します。
---	----------------------------------

```
switch# configure session MySession
switch(config-s)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>show configuration session</b>	コンフィギュレーション セッションに関する情報を表示します。

# configure terminal

コンフィギュレーション モードを開始するには、**configure terminal** コマンドを使用します。

## configure terminal

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、コンフィギュレーション モードを開始するために使用します。このモードでのコマンドは、入力 (Enter キー/キャリッジ リターンを使用) と同時に実行コンフィギュレーション ファイルに書き込まれます。

**configure terminal** コマンドを入力した後は、システム プロンプトが **switch#** から **switch(config)#** に変わり、スイッチがコンフィギュレーション モードであることを示します。コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** と入力するか、**Ctrl+Z** を押します。

変更した設定を表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルとして保存します。
<b>end</b>	コンフィギュレーション セッションを終了して、EXEC モードに移行します。
<b>exit</b> (グローバル)	現在のコンフィギュレーション モードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーション モードへと移行します。
<b>show running-config</b>	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。



# copy

コピー元からコピー先へとファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

**copy source-url destination-url**

## 構文の説明

<i>source-url</i>	コピーされる元のファイルまたはディレクトリの場所の URL (または変数)。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー元がローカルの場合とリモートの場合があります。  詳細については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。
<i>destination-url</i>	コピーしたファイルまたはディレクトリのコピー先 URL (または変数)。ファイルがダウンロードされるか、アップロードされるかに応じて、コピー先がローカルの場合とリモートの場合があります。  詳細については、「使用上のガイドライン」の項を参照してください。

## コマンド デフォルト

コピー先のファイルのデフォルト名は、コピー元のファイル名です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**copy** コマンドを使用すると、1 つの場所から別の場所へファイル (システム イメージまたはコンフィギュレーション ファイルなど) をコピーできます。コピー元ファイルとそのコピー先は、Cisco NX-OS ファイル システムの URL を使用して指定します。これにより、ローカルとリモートのどちらのファイルの場所でも指定できます。使用するファイル システム (ローカル メモリ ソースまたはリモート サーバなど) により、コマンドで使用する構文が決定されます。

すべての必要なコピー元およびコピー先 URL 情報や、使用するユーザ名は、コマンドラインに入力できます。または **copy** コマンドを入力すると、CLI から必要な情報の入力を求められます。

コピー プロセス全体は、ネットワーク条件やファイルのサイズに応じて数分間かかる場合があります。また、それぞれのプロトコルおよびネットワークによっても異なります。

ファイルシステムの URL プレフィックス キーワード (**bootflash** など) の後にはコロン (:) が必要です。

**ftp:**、**scp:**、**sftp:** および **ftftp:** の URL 構文では、サーバは、IPv4 アドレスまたはホスト名のいずれかです。

### コピー元およびコピー先 URL の形式

コピー元とコピー先の URL の形式は、ファイルまたはディレクトリの場所によって異なります。Cisco NX-OS ファイル システムの構文 (*filesystem:[/directory][/filename]*) に従ったディレクトリ名またはファイル名のコマンドライン インターフェイス (CLI) 変数を入力できます。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィックス キーワードのリストです。URL プレフィックスのキーワードを指定しない場合、スイッチは、現在のディレクトリ内のファイルを検索します。

表 i-1 は、書き込み可能なローカルストレージファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。表 i-2 は、リモートファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。表 i-3 は、書き込み不可のファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。

表 i-1 書き込み可能なローカルストレージファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>bootflash:</b> [//server/]	ブートフラッシュメモリのコピー元またはコピー先の URL。server 引数の値は、 <b>module-1</b> 、 <b>sup-1</b> 、 <b>sup-active</b> または <b>sup-local</b> です。
<b>volatile:</b> [//server/]	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元またはコピー先の URL。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチのリブート時に消去されます。server 引数の値は、 <b>module-1</b> 、 <b>sup-1</b> 、 <b>sup-active</b> または <b>sup-local</b> です。

表 i-2 リモートファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>ftp:</b>	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 <b>ftp:</b> [//server]/[path]/filename
<b>scp:</b>	Secure Shell (SSH; セキュア シェル) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用してファイルのコピーを受け入れるネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 <b>scp:</b> [//[username@]server]/[path]/filename
<b>sftp:</b>	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 <b>sftp:</b> [//[username@]server]/[path]/filename
<b>tftp:</b>	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 <b>tftp:</b> [//server[:port]][/path]/filename

表 i-3 特殊ファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>debug:</b>	デバッグファイルのローカルメモリ。コアファイルをデバッグファイル システムからコピーできます。
<b>log:</b>	ログファイルのローカルメモリ。ログファイルをログファイル システムからコピーできます。
<b>modflash:</b>	mod ファイルの外部メモリ。mod ファイルを modflash ファイル システムからコピーできます。

表 i-3 特殊ファイル システムの URL プレフィックス キーワード (続き)

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>system:</b>	ローカル システム メモリ。実行コンフィギュレーションをシステム ファイル システムへ、またはシステム ファイル システムからコピーできます。システム ファイル システムの使用は、コマンドで <b>running-config</b> ファイルを参照するときは任意です。
<b>usb1:</b>	外部 USB フラッシュ メモリ デバイスのコピー元またはコピー先の URL。
<b>volatile:</b>	ローカル揮発性メモリ。揮発性ファイル システムへ、または揮発性ファイル システムからファイルをコピーできます。揮発性メモリのファイルはすべて、物理デバイスがリロードすると失われます。

ここでは、次の操作に関する使用ガイドラインを示します。

- 「サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー」 (P.23)
- 「サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」 (P.23)
- 「サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー」 (P.23)
- 「サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー」 (P.23)

#### サーバからブートフラッシュ メモリへのファイルのコピー

イメージをサーバからローカルブートフラッシュ メモリにコピーするには、**copy source-url bootflash:** コマンド (たとえば、**copy tftp:source-url bootflash:**) を使用します。

#### サーバから実行コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

ネットワーク サーバから、デバイスの実行コンフィギュレーションにコンフィギュレーション ファイルをダウンロードするには、**copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url running-config** コマンドを使用します。設定は、コマンドを CLI に入力した場合と同様に、実行コンフィギュレーションに追加されます。その結果、コンフィギュレーション ファイルは、以前の実行コンフィギュレーションとダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルを組み合わせたものとなります。以前の実行コンフィギュレーションより、ダウンロードされたコンフィギュレーション ファイルが優先して適用されます。

ホスト コンフィギュレーション ファイルまたはネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーできます。特定の 1 つのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むホスト コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、デフォルト値の *host* を使用します。ネットワーク上のすべてのネットワーク サーバに適用するコマンドを含むネットワーク コンフィギュレーション ファイルをコピーして読み込むには、*network* を入力します。

#### サーバからスタートアップ コンフィギュレーションへのコンフィギュレーション ファイルのコピー

コンフィギュレーション ファイルを、ネットワーク サーバからスイッチのスタートアップ コンフィギュレーションにコピーするには、**copy {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}source-url startup-config** コマンドを使用します。これらのコマンドにより、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルが、コピーしたコンフィギュレーション ファイルに置き換えられます。

#### サーバ上の実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーションのコピー

FTP、SCP、SFTP、または TFTP を使用するネットワーク サーバに現在のコンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy running-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url** コマンドを使用します。ネットワーク サーバにスタートアップ コンフィギュレーション ファイルをコピーするには、**copy startup-config {ftp: | scp: | sftp: | tftp:}destination-url** コマンドを使用します。

コピーしたコンフィギュレーション ファイルのコピーはバックアップとして使用できます。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、同じディレクトリ内にファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 file2
```

次に、別のディレクトリにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 my-scripts/file2
```

次に、別のファイル システムにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

次に、リモート サーバからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy scp://192.168.1.1/image-file.bin bootflash:image-file.bin
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>delete</b>	ファイルまたはディレクトリを削除します。
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>move</b>	ファイルを移動します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

# copy running-config startup-config

現在のすべての設定情報をリブート後にも使用可能になるよう、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

## copy running-config startup-config

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

変更した設定を表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。



(注)

**copy running-config startup-config** コマンドを入力した後は、実行中の設定と起動時の設定が同じになります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存する例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show running-config</b>	現在の実行コンフィギュレーションを表示します。
<b>show startup-config</b>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルを表示します。

# databits

端末ポートの文字に含まれるデータ ビット数を設定するには、**databits** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**databits** *bits*

**no databits** *bits*

## 構文の説明

*bits* 1 文字中のデータ ビット数。有効な範囲は 5 ~ 8 です。

## コマンド デフォルト

8 ビット

## コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コンソール ポートのデータ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# databits 7
```

次に、コンソール ポートのデータ ビット数をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no databits 7
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show line</b>	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

# debug logfile

指定のファイルに **debug** コマンドの結果を出力するには、**debug logfile** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug logfile** *filename* [*size bytes*]

**no debug logfile** *filename* [*size bytes*]

構文の説明	<i>filename</i>	<b>debug</b> コマンドの出力ファイルの名前。ファイル名は、最大 64 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。
	<i>size bytes</i>	(任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で指定します。有効な範囲は 4096 ~ 4194304 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** Cisco NX-OS ソフトウェアは、**log:** ファイル システム ルート ディレクトリにログ ファイルを作成します。ログ ファイルを表示するには、**dir log:** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、デバッグ ログ ファイルを指定する例を示します。

```
switch# debug logfile debug_log
```

次に、デフォルトのデバッグ ログ ファイルに戻す例を示します。

```
switch# no debug logfile debug_log
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
	<b>show debug logfile</b>	デバッグ ログ ファイルの内容を表示します。

# debug logging

**debug** コマンド出力のロギングをイネーブルにするには、**debug logging** コマンドを使用します。デバッグ ロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug logging**

**no debug logging**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# debug logging
```

次に、**debug** コマンドの出力のロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# no debug logging
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug logfile</b>	<b>debug</b> コマンド出力のログ ファイルを設定します。



# delete

ファイルまたはディレクトリを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

```
delete [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

## 構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>debug</b> 、 <b>log</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	削除するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。



(注)

*filesystem://server/directory/filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

削除するファイルを見つけるには、**dir** コマンドを使用します。

**delete** コマンドでディレクトリを削除すると、その内容も削除されます。このコマンドでディレクトリを削除する場合は、注意が必要です。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash:old_config.cfg
```

次に、ディレクトリを削除する例を示します。

```
switch# delete my_dir
This is a directory. Do you want to continue (y/n)? [y] y
```

■ delete

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>save</b>	コンフィギュレーション セッションをファイルに保存します。

# dir

ディレクトリの内容を表示するには、**dir** コマンドを使用します。

```
dir [filesystem:] [//server/] [directory]
```

## 構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>debug</b> 、 <b>log</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) `filesystem://server/directory` 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

現在の作業ディレクトリの内容を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**dir** コマンドを使用すると、指定したディレクトリにあるファイルのリストが表示されます。各ファイルについては、ファイルのサイズ (バイト単位)、最終変更日時、ファイル名のリストが表示されます。その後、ファイル システムの使用に関する統計が表示されます。

現在の作業ディレクトリを確認するには、**pwd** コマンドを使用します。

現在の作業ディレクトリを変更するには、**cd** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ブートフラッシュのルート ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash:
```

次に、現在の作業ディレクトリの内容を表示する例を示します。

```
switch# dir
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>delete</b>	ファイルまたはディレクトリを削除します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
<b>rmdir</b>	ディレクトリを削除します。

# echo

端末にテキスト文字列を表示するには、**echo** コマンドを使用します。

**echo** [*text*]

## 構文の説明

<i>text</i>	(任意) 表示するテキスト文字列を指定します。このテキスト文字列は 200 文字以下の長さの英数字で、大文字と小文字を区別し、スペースを含むことができます。テキスト文字列には、CLI 変数への参照も含めることができます。
-------------	--

## コマンド デフォルト

空白行。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、ステータス情報を表示したり、スクリプトの実行中にプロンプトを表示したりできます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コマンド プロンプトで空白行を表示する例を示します。

```
switch# echo
```

次に、コマンド プロンプトで 1 行のテキストを表示する例を示します。

```
switch# echo Script run at $(TIMESTAMP)
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>run-script</b>	コマンドスクリプトを実行します。
<b>show cli variables</b>	CLI 変数を表示します。

# end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに戻るには、**end** コマンドを使用します。

**end**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、現在使用しているコンフィギュレーション モードにかかわらず、EXEC モードに戻ります。このコマンドは、システムの設定を終了し、EXEC モードに戻って確認手順を実行するときに使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、**end** コマンドを使用してインターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、EXEC モードに戻ります。設定を確認するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# switchport host
switch(config-if)# end
switch# show interface ethernet 1/1
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>exit (EXEC)</b>	スイッチからログアウトして、アクティブなターミナルセッションを終了します。
<b>exit (グローバル)</b>	現在のコンフィギュレーション モードを終了します。

# exec-timeout

コンソール ポート上または仮想端末上の非アクティブ セッションのタイムアウトを設定するには、**exec-timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**exec-timeout** *minutes*

**no exec-timeout**

## 構文の説明

<i>minutes</i>	分単位での時間。有効な範囲は 0 ~ 525600 です。0 分を設定すると、タイムアウトがディセーブルになります。
----------------	--

## コマンド デフォルト

タイムアウトはディセーブルです。

## コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# exec-timeout 30
switch(config-console)#
```

次に、コンソール ポートの非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no exec-timeout
switch(config-console)#
```

次に、仮想端末の非アクティブ セッションのタイムアウトを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# exec-timeout 30
switch(config-line)#
```

次に、仮想端末の非アクティブ セッションのタイムアウトをデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
```

## ■ exec-timeout

```
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no exec-timeout
switch(config-line)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>line console</b>	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>line vty</b>	仮想端末コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。



## exit (EXEC)

スイッチからログアウトして、アクティブなターミナルセッションを終了するには、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

**exit**

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、**exit (グローバル)** コマンドを使用して、コンフィギュレーション モードから EXEC モードに移行し、**exit (EXEC)** コマンドを使用してログアウト (アクティブなセッションを終了) する例を示します。

```
switch(config)# exit  
switch# exit
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>end</b>	コンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに移行します。
<b>exit (グローバル)</b>	現在のコンフィギュレーションモードを終了して、その次に高度なコンフィギュレーションモードへと移行します。

# exit (グローバル)

任意のコンフィギュレーション モードを終了して、CLI モードの階層構造で次に高度なモードに移動するには、任意のコンフィギュレーション モードで **exit** コマンドを使用します。

## exit

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

すべてのコンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**exit** コマンドをコンフィギュレーション モードで使用すると、EXEC モードに戻ります。**exit** コマンドをインターフェイス、VLAN、またはゾーンの各コンフィギュレーション モードで使用すると、コンフィギュレーション モードに戻ります。最高レベルである EXEC モードでは、**exit** コマンドで EXEC モードを終了し、スイッチとの接続を切断します（詳細については、**exit (EXEC)** コマンドの説明を参照してください）。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了して、コンフィギュレーション モードに戻る例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 1/1
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>end</b>	コンフィギュレーション セッションを終了して、特権 EXEC モードに移行します。
<b>exit (EXEC)</b>	スイッチからログアウトして、アクティブなターミナル セッションを終了します。

# feature interface-vlan

VLAN インターフェイスの作成をイネーブルにするには、**feature interface-vlan** コマンドを使用します。VLAN インターフェイス機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature interface-vlan**

**no feature interface-vlan**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

VLAN インターフェイスはディセーブルです。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**feature interface-vlan** コマンドは、VLAN インターフェイスを作成する前に使用する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、スイッチでインターフェイス上の VLAN 機能をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature interface-vlan
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>interface vlan</b>	VLAN インターフェイスを作成します。
<b>show feature</b>	VLAN インターフェイスがスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

# feature lacp

Link Aggregation Control Protocol (LACP) をイネーブルにするには、**feature lacp** コマンドを使用します。LACP は、複数の物理ポートをバンドルして単一の論理チャネルを作成します。スイッチで LACP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature lacp**

**no feature lacp**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンドデフォルト

LACP はディセーブルです。

## コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

LACP をディセーブルにするには、スイッチのすべてのポート チャネルからすべての LACP コンフィギュレーション パラメータを削除する必要があります。

グローバルに LACP をイネーブルにした後でも、スイッチのすべてのポート チャネルで LACP を実行する必要はありません。各チャネル モードで LACP をイネーブルにするには、**channel-group mode** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、スイッチで LACP ポート チャネルをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature lacp
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show lacp</b>	LACP に関する情報を表示します。
<b>show feature</b>	LACP がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

# feature uddl

シスコ独自の Unidirectional Link Detection (UDLD; 単方向リンク検出) プロトコルをイネーブルにするには、**feature uddl** コマンドを使用します。UDLD をイネーブルにすると、光ファイバまたは銅線イーサネット ケーブルを介して接続されているポート上で、ケーブルの物理設定をモニタし、単方向リンクの存在を検出できます。スイッチで UDLD をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**feature uddl**

**no feature uddl**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

UDLD はディセーブルです。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、スイッチの UDLD をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# feature uddl
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show uddl</b>	管理上および運用上の UDLD ステータスを表示します。
<b>show feature</b>	UDLD がスイッチでイネーブルになっているかどうかを表示します。

# find

特定の文字列で始まるファイル名を検索するには、**find** コマンドを使用します。

**find** *filename-prefix*

## 構文の説明

<i>filename-prefix</i>	ファイル名の最初の部分または全体。ファイル名プレフィックスでは、大文字と小文字が区別されます。
------------------------	---

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**find** コマンドを使用すると、現在の作業ディレクトリの下にあるサブディレクトリがすべて検索されます。**cd** および **pwd** コマンドを使用して、最初に検索するディレクトリに移動することができます。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、「n3000」で始まるファイル名を表示する例を示します。

```
switch# find n3000
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

# format

ブートフラッシュ デバイスをフォーマットする、つまり、内容を消去して、工場からの出荷時の状態に戻すには、**format** コマンドを使用します。

## format bootflash:

構文の説明	<b>bootflash:</b> ブートフラッシュ ファイル システムの名前を指定します。								
コマンド デフォルト	なし								
コマンド モード	EXEC モード								
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更箇所</th></tr></thead><tbody><tr><td>5.0(3)U1(1)</td><td>このコマンドが追加されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更箇所	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。				
リリース	変更箇所								
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。								
使用上のガイドライン	このコマンドには、ライセンスは必要ありません。								
例	次に、ブートフラッシュ デバイスをフォーマットする例を示します。 switch# <b>format bootflash:</b>								
関連コマンド	<table><thead><tr><th>コマンド</th><th>説明</th></tr></thead><tbody><tr><td><b>cd</b></td><td>現在の作業ディレクトリを変更します。</td></tr><tr><td><b>dir</b></td><td>ディレクトリの内容を表示します。</td></tr><tr><td><b>pwd</b></td><td>現在の作業ディレクトリ名を表示します。</td></tr></tbody></table>	コマンド	説明	<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。	<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。	<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
コマンド	説明								
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。								
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。								
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。								

# gunzip

圧縮ファイルを解凍するには、**gunzip** コマンドを使用します。

```
gunzip [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

## 構文の説明

<i>filesystem</i> :	(任意) ファイルシステムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	解凍するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。



(注)

*filesystem://server/directory/filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

圧縮ファイルの名前に **.gz** 拡張子が含まれている必要があります

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して圧縮を行います。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します。

```
switch# gunzip run_cfg.cfg.gz
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>gzip</b>	ファイルを圧縮します。



# gzip

ファイルを圧縮するには、**gzip** コマンドを使用します。

```
gzip [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

## 構文の説明

<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server</i> /	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	圧縮するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドを実行した後は、指定されたファイルが、ファイル名に **.gz** 拡張子が追加された圧縮ファイルに置き換えられます。

Cisco NX-OS ソフトウェアは、Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用して圧縮を行います。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# gzip run_cfg.cfg
```

## ■ gzip

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
	<b>gunzip</b>	圧縮ファイルを解凍します。

# hostname

スイッチのホスト名を設定するには、**hostname** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**hostname name**

**no hostname**

## 構文の説明

<i>name</i>	スイッチのホスト名。この名前は、最大 32 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含むことができます。
-------------	---

## コマンド デフォルト

デフォルトのホスト名は「switch」です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、コマンドライン インターフェイス (CLI) プロンプト、およびデフォルトのコンフィギュレーション ファイル名でホスト名を使用します。

**hostname** コマンドは、**switchname** コマンドと同じ機能を実行します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# hostname Engineering2
Engineering2(config)#
```

次に、デフォルトのホスト名に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2(config)# no hostname
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show hostname</b>	スイッチのホスト名を表示します。
<b>show switchname</b>	スイッチのホスト名を表示します。
<b>switchname</b>	スイッチのホスト名を設定します。

# install all

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチにキックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールするには、**install all** コマンドを使用します

```
install all [kickstart kickstart-url] [system system-url]
```

## 構文の説明

<b>kickstart</b>	(任意) キックスタート イメージ ファイルを指定します。
<i>kickstart-url</i>	キックスタート イメージ ファイルの完全なアドレスを指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>system</b>	(任意) システム イメージ ファイルを指定します。
<i>system-url</i>	システム イメージ ファイルの完全なアドレスを指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。

## コマンド デフォルト

パラメータを入力しない場合は、ブート変数の値が使用されます。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

キックスタートおよびシステムの URL の形式は、ファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの場所によって異なります。

次の表は、ファイル システムのタイプごとの URL プレフィックス キーワードのリストです。URL プレフィックスのキーワードを指定しない場合、スイッチは、現在のディレクトリ内のファイルを検索します。

表 i-4 は、書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。表 i-5 は、リモート ファイル システムの URL プレフィックス キーワードのリストです。リモート ファイル システムでは、特に指定しない場合、パスはリモート サーバ上のユーザのデフォルト パスです。

表 i-4 書き込み可能なローカル ストレージ ファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>bootflash:[//server/]</b>	ブート フラッシュ メモリのコピー元 URL。server 引数の値は、 <b>module-1</b> 、 <b>sup-1</b> 、 <b>sup-active</b> または <b>sup-local</b> です。
<b>modflash:[//server/]</b>	外部フラッシュ ファイル システムのコピー元 URL。server 引数の値は、 <b>module-1</b> 、 <b>sup-1</b> 、 <b>sup-active</b> または <b>sup-local</b> です。
<b>volatile:[//server/]</b>	デフォルトの内部ファイル システムのコピー元の URL。このファイル システムに格納されたファイルまたはディレクトリはすべて、スイッチのリブート時に消去されます。server 引数の値は、 <b>module-1</b> 、 <b>sup-1</b> 、 <b>sup-active</b> または <b>sup-local</b> です。

表 i-5 リモート ファイル システムの URL プレフィックス キーワード

キーワード	コピー元またはコピー先
<b>ftp:</b>	FTP ネットワーク サーバのコピー元の URL。このエイリアスの構文は次のとおりです。 <b>ftp://server[/path]/filename</b>
<b>scp:</b>	Secure Shell (SSH; セキュア シェル) をサポートし、Secure Copy Protocol (SCP) を使用するネットワークサーバのコピー元の URL を指定します。構文は次のとおりです。 <b>scp://[username@]server[/path]/filename</b>
<b>sftp:</b>	SSH FTP (SFTP) ネットワーク サーバのコピー元の URL。構文は次のとおりです。 <b>sftp://[username@]server[/path]/filename</b>
<b>tftp:</b>	TFTP ネットワーク サーバのコピー元の URL。構文は次のとおりです。 <b>tftp://server[:port][[/path]/filename</b>

イメージ ファイルをリモート サーバからダウンロードしてインストールするとき、サーバに関する情報またはユーザ名を入力していない場合は、情報の入力を求められます。

このコマンドは、キックスタートおよびシステムのブート変数を設定し、イメージ ファイルを冗長 スーパーバイザ モジュールにコピーします。

**install all** コマンドは、スイッチ ソフトウェアをアップグレードします。

**install all** コマンドを使用すると、スイッチの Cisco NX-OS ソフトウェアをダウングレードできます。ダウングレード ソフトウェアに、スイッチの現在の設定との互換性があるかどうかを調べるには、**show incompatibility system** コマンドを使用し、設定の互換性に問題がある場合は、それを解決します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、bootflash: ディレクトリから Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# install all kickstart bootflash:nx-os_kick.bin system bootflash:nx-os_sys.bin
```

次に、キックスタートおよびシステムのブート変数に設定された値を使って、Cisco NX-OS ソフトウェアをインストールする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# boot kickstart bootflash:n3000-uk9-kickstart.5.0.3.U1.1.bin
switch(config)# boot system bootflash:n3000-uk9.5.0.3.U1.1.bin
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
switch# install all
```

次に、SCP サーバから Cisco NX-OS をインストールする例を示します。

```
switch# install all kickstart
scp://adminuser@192.168.1.1/n3000-uk9-kickstart.5.0.3.U1.1.bin system
bootflash:scp://adminuser@192.168.1.1/n3000-uk9.5.0.3.U1.1.bin
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>reload</b>	デバイスに新しい Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。
<b>show incompatibility system</b>	Cisco NX-OS システム ソフトウェア イメージ間の設定互換性の問題を表示します。
<b>show install all</b>	インストール処理に関する情報を表示します。
<b>show version</b>	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

# install license

ライセンスをインストールするには、**install license** コマンドを使用します。

```
install license [filesystem:] [//server/] [directory] src-filename [target-filename]
```

## 構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>src-filename</i>	元のライセンス ファイルの名前。
<i>target-filename</i>	(任意) ターゲット ライセンス ファイルの名前。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチのライセンスはすべて、工場出荷時にインストールされています。手動インストールは不要です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ターゲット ファイル名をコピー元の場所の後に指定した場合は、ライセンス ファイルがその名前でインストールされます。それ以外の場合、コピー元 URL のファイル名が使用されます。また、このコマンドはインストール前のライセンス ファイルも検証します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、**bootflash:** ディレクトリに常駐する、**license-file** という名前のファイルをインストールする例を示します。

```
switch# install license bootflash:license-file
```

## ■ install license

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license</b>	ライセンス情報を表示します。
<b>show license host-id</b>	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。
<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。



# line console

コンソール ポートを指定して、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。

## line console

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

コンソール回線は、コンソール ポート セッションだけから設定できます。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>databits</b>	ポートの文字に含まれるデータ ビットの数を設定します。
<b>exec-timeout</b>	ポートの非アクティブ端末タイムアウトを設定します。
<b>modem</b>	ポートのモデム設定を指定します。
<b>parity</b>	ポートのパリティ設定を指定します。
<b>show line</b>	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。
<b>speed</b>	ポートの送信速度と受信速度を設定します。
<b>stopbits</b>	ポートのストップ ビットを設定します。

# line vty

仮想端末を指定して、ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。

## line vty

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>access-class</b>	VTY コンフィギュレーション モードで、着信接続および発信接続を制限します。
<b>exec-timeout</b>	ポートの非アクティブ端末タイムアウトを設定します。
<b>session-limit</b>	同時仮想ターミナルセッションの最大数を設定します。
<b>show line</b>	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

# modem in

コンソール ポートでモデム接続をイネーブルにするには、**modem in** コマンドを使用します。モデム接続をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**modem in**

**no modem in**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## コマンド デフォルト

タイムアウトはディセーブルです。

## コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コンソール ポートでモデム接続をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem in
```

次に、コンソール ポートでモデム接続をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem in
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>line console</b>	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>show line</b>	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

# modem init-string

コンソール ポートに接続されたモデムに初期化文字列をダウンロードするには、**modem init-string** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**modem init-string {default | user-input}**

**no modem init-string**

## 構文の説明

<b>default</b>	デフォルトの初期化文字列をダウンロードします。
<b>user-input</b>	ユーザ入力の初期化文字列をダウンロードします。

## コマンド デフォルト

デフォルトの初期化文字列は ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 です。

## コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。デフォルトの初期化文字列 ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 の定義は次のとおりです。

- AT : 注意
- E0 (必須) : エコーなし
- Q1 : 結果コードがオン
- &D2 : 通常の Data Terminal Ready (DTR; データ端末動作可能) オプション
- &C1 : データ キャリア状態の追跡がイネーブル
- S0=1 : 1 回の呼び出し音の後に応答
- \015 (必須) : オクタルでの改行 (CR)

ユーザ入力の初期化文字列を設定するには、**modem set-string** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コンソール ポートに接続されたモデムにデフォルトの初期化文字列をダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string default
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムにユーザ入力の初期化文字列をダウンロードする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem init-string user-input
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムの初期化文字列を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem init-string
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>line console</b>	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>modem set-string</b>	モデムのユーザ入力の初期化文字列を設定します。
<b>show line</b>	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

# modem set-string user-input

コンソール ポートに接続されたモデムにダウンロードするためのユーザ入力の初期化文字列を設定するには、**modem set-string user-input** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**modem set-string user-input** *string*

**no modem set-string**

<b>構文の説明</b>	<i>string</i>	ユーザ入力の文字列。この文字列は、最大 100 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含むことができます。
--------------	---------------	---

<b>コマンド デフォルト</b>	なし
-------------------	----

<b>コマンド モード</b>	端末ライン コンフィギュレーション モード
-----------------	-----------------------

<b>コマンド履歴</b>	<b>リリース</b>	<b>変更箇所</b>
	5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。 このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
-------------------	---

<b>例</b>	次に、コンソール ポートに接続されたモデムのための、ユーザ入力の初期化文字列を設定する例を示します。
----------	--

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# modem set-string user-input ATE0Q1&D2&C1S0=3\015
```

次に、コンソール ポートに接続されたモデムのための、デフォルトのユーザ入力の初期化文字列に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no modem set-string
```

<b>関連コマンド</b>	<b>コマンド</b>	<b>説明</b>
	<b>line console</b>	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>modem init-string</b>	モデムにユーザ入力の初期化文字列をダウンロードします。
	<b>show line</b>	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

# move

あるディレクトリから別のディレクトリにファイルを移動するには、**move** コマンドを使用します。

```
move {[filesystem:] [//server/] [directory] source-filename} [filesystem:] [//server/]
[directory] [destination-filename]
```

構文の説明	
<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>debug</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>source-filename</i>	移動するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されず。
<i>destination-filename</i>	(任意) 移動先ファイルの名前。ファイル名は、最大 64 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別されます。

**コマンド デフォルト** デフォルトの移動先ファイル名は、移動元のファイルと同じです。

**コマンド モード** EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** **copy** コマンドを使用すると、ファイルのコピーを作成できます。



**ヒント**

同じディレクトリ内でファイルを移動することで、ファイル名を変更できます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、別のディレクトリにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 my_files/file2
```

次に、別のファイル システムにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 volatile:
```

次に、別のスーパーバイザ モジュールにファイルを移動する例を示します。

```
switch# move file1 bootflash://sup-1/file1.bak
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>copy</b>	ファイルのコピーを作成します。
<b>delete</b>	ファイルまたはディレクトリを削除します。
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。



# parity

コンソール ポートのパリティを設定するには、**parity** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
parity {even | none | odd}
```

```
no parity {even | none | odd}
```

## 構文の説明

<b>even</b>	偶数パリティを指定します。
<b>none</b>	パリティなしを指定します。
<b>odd</b>	奇数パリティを指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルトは **none** キーワードです。

## コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コンソール ポートにパリティを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# parity even
```

次に、コンソール ポートのデフォルトのパリティに戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no parity even
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show line</b>	コンソール ポートの設定に関する情報を表示します。

# ping

別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を調べるには、**ping** コマンドを使用します。

```
ping {dest-address | hostname} [count {number | unlimited}] [df-bit] [interval seconds]
[packet-size bytes] [parent-interface {ethernet slot/port | loopback if_number |
port-channel number} member-interface {ethernet slot/port | loopback if_number |
port-channel number}] [source src-address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name |
default | management}]
```

## 構文の説明

<i>dest-address</i>	宛先デバイスの IPv4 アドレス。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名。ホスト名では、大文字と小文字が区別されます。
<b>count</b>	(任意) 送信の回数を指定します。
<i>number</i>	<b>ping</b> の数。有効な範囲は 1 ~ 655350 です。デフォルトは 5 です。
<b>unlimited</b>	無制限の回数の <b>ping</b> を許可します。
<b>df-bit</b>	(任意) IPv4 ヘッダーの <b>do-not-fragment</b> ビットをイネーブルにします。デフォルトではディセーブルです。
<b>interval</b> <i>seconds</i>	(任意) 送信の間隔を秒数で指定します。有効な範囲は 0 ~ 60 です。デフォルトは 1 秒です。
<b>packet-size</b> <i>bytes</i>	(任意) 送信するパケットサイズをバイト数で指定します。有効な範囲は 1 ~ 65468 です。デフォルト値は 56 バイトです。
<b>parent-interface</b>	(任意) <b>ping</b> を実行する親インターフェイスを指定します。
<i>ethernet slot/port</i>	イーサネット インターフェイス、およびスロット番号とポート番号を指定します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
<b>loopback</b> <i>if_number</i>	ループバック インターフェイスを指定します。ループバック インターフェイスの番号は 0 ~ 1023 です。
<b>port-channel</b> <i>number</i>	EtherChannel インターフェイスおよび EtherChannel 番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。
<b>member-interface</b>	<b>ping</b> を実行するメンバー インターフェイスを指定します。
<b>source</b> <i>src-address</i>	(任意) 使用する送信元 IPv4 アドレスを指定します。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。
<b>timeout</b> <i>seconds</i>	(任意) 無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字で、大文字と小文字が区別されます。
<b>default</b>	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
<b>management</b>	(任意) 管理 VRF を指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「構文の説明」の項を参照してください。

## コマンド モード

EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。
	5.0(3)U2(1)	親インターフェイスの ping のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、別のネットワーク デバイスへの接続性を調べる例を示します。

```
switch# ping 192.168.2.246
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ping6	IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
	traceroute	IP アドレスに転送されるときのパケットのルートを表示します。

# ping multicast

IPv4 マルチキャスト インターフェイスとのネットワーク接続を確認するには、**ping multicast** コマンドを使用します。

```
ping multicast multicast-grp-address interface {ethernet slot/port | loopback if_number |
  mgmt mgmt_intf | port-channel number} [[count {number | unlimited}] [df-bit]
  [interval seconds]
  [packet-size bytes] [parent-interface {ethernet slot/port | loopback if_number |
  port-channel number} member-interface {ethernet slot/port | loopback if_number |
  port-channel number}] [source src-address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name |
  default | management}]]
```

## 構文の説明

<i>multicast-grp-address</i>	宛先デバイスのマルチキャストグループアドレス。
<b>interface</b>	IPv4 マルチキャスト パケットを送信するインターフェイスを指定します。
<i>ethernet slot/port</i>	IEEE 802.3z イーサネット インターフェイスを指定します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
<i>loopback if_number</i>	ループバック インターフェイスを指定します。ループバック インターフェイスの番号は 0 ~ 1023 です。
<i>mgmt mgmt_intf</i>	管理インターフェイスを指定します。管理インターフェイスは 0 です。
<i>port-channel number</i>	EtherChannel インターフェイスおよび EtherChannel 番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。
<b>count</b>	(任意) 送信の回数を指定します。
<i>number</i>	<b>ping</b> の数。有効な範囲は 1 ~ 655350 です。デフォルトは 5 です。
<b>unlimited</b>	無制限の回数の <b>ping</b> を許可します。
<b>df-bit</b>	(任意) IPv4 ヘッダーの <b>do-not-fragment</b> ビットをイネーブルにします。デフォルトではディセーブルです。
<i>interval seconds</i>	(任意) 送信の間隔を秒数で指定します。有効な範囲は 0 ~ 60 です。デフォルトは 1 秒です。
<i>packet-size bytes</i>	(任意) 送信するパケットサイズをバイト数で指定します。有効な範囲は 1 ~ 65468 です。デフォルト値は 56 バイトです。
<b>parent-interface</b>	<b>ping</b> を実行する親インターフェイスを指定します。
<i>source src-address</i>	(任意) 使用する送信元 IPv4 アドレスを指定します。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。
<i>timeout seconds</i>	(任意) 無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
<i>vrf vrf-name</i>	(任意) 使用する <b>Virtual Routing and Forwarding</b> (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字で、大文字と小文字が区別されます。
<b>default</b>	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
<b>management</b>	(任意) 管理 VRF を指定します。

## コマンド デフォルト

なし

**コマンド モード**

EXEC モード  
グローバル コンフィギュレーション モード

**コマンド履歴**

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。
5.0(3)U2(1)	親インターフェイスおよびマルチキャスト グループ アドレスの ping のサポートが追加されました。

**使用上のガイドライン**

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例**

次に、イーサネット インターフェイスにマルチキャスト パケットを送信する例を示します。

```
switch# ping multicast 239.128.1.0 interface ethernet 1/5
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>ping</b>	IPv4 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
<b>ping6</b>	IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
<b>tracert</b>	IP アドレスに転送されるときのパケットのルートを表示します。

# ping6

IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとのネットワーク接続を確認するには、**ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {dest-address | hostname} [count {number | unlimited}] [interface {ethernet
slot/port | loopback if_number | port-channel number}] [interval seconds]
[packet-size bytes] [source address] [timeout seconds] [vrf {vrf-name | default |
management}]
```

## 構文の説明

<i>dest-address</i>	宛先 IPv6 アドレス。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスのホスト名。ホスト名では、大文字と小文字が区別されます。
<b>count</b>	(任意) 送信の回数を指定します。
<i>number</i>	<b>ping</b> の数。有効な範囲は 1 ~ 655350 です。デフォルトは 5 です。
<b>unlimited</b>	無制限の回数の <b>ping</b> を許可します。
<b>interface</b>	(任意) IPv6 パケットを送信するインターフェイスを指定します。
<b>ethernet</b> <i>slot/port</i>	IEEE 802.3z イーサネット インターフェイスを指定します。スロット番号は 1 ~ 255、ポート番号は 1 ~ 128 です。
<b>loopback</b> <i>if_number</i>	ループバック インターフェイスを指定します。ループバック インターフェイスの番号は 0 ~ 1023 です。
<b>port-channel</b> <i>number</i>	EtherChannel インターフェイスおよび EtherChannel 番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 4096 です。
<b>interval</b> <i>seconds</i>	(任意) 送信の間隔を秒数で指定します。有効な範囲は 0 ~ 60 です。デフォルトは 1 秒です。
<b>packet-size</b> <i>bytes</i>	(任意) 送信するパケットサイズをバイト数で指定します。有効な範囲は 1 ~ 65468 です。
<b>source</b> <i>address</i>	(任意) 使用する送信元 IPv6 アドレスを指定します。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。デフォルトは、デバイスの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。
<b>timeout</b> <i>seconds</i>	(任意) 無応答タイムアウトの間隔を秒数で指定します。指定できる範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 2 秒です。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<b>default</b>	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
<b>management</b>	(任意) 管理 VRF を指定します。

## コマンドデフォルト

デフォルト値については、このコマンドの「構文の説明」の項を参照してください。

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を判別する例を示します。

```
switch# ping6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
ping	IPv4 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
tracert	IPv4 アドレスに転送されるときのパケットのルートを表示します。
tracert6	IPv6 アドレスに転送されるときのパケットのルートを表示します。

# reload

スイッチをリロードするには、**reload** コマンドを使用します。

**reload {all}**

## 構文の説明

**all** スイッチをリブートします。

## コマンドデフォルト

Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチをリロードします。

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン



### 注意

**reload** コマンドでは、スイッチ上のトラフィックを中断します。



### (注)

**reload** コマンドでは、実行コンフィギュレーションが保存されません。スイッチの現在のコンフィギュレーションを保存するには、**copy running-config startup-config** コマンドを使用します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチをリロードする例を示します。

```
switch# copy running-config startup-config
switch# reload
WARNING: This command will reboot the system
Do you want to continue? (y/n) [n] y
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	現在の実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<b>show version</b>	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。



# rmdir

ディレクトリを削除するには、**rmdir** コマンドを使用します。

```
rmdir [filesystem: [//server/]] directory
```

## 構文の説明

<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。
// <i>server</i> /	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	削除するディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。



(注) *filesystem://server/directory* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次の例では、ディレクトリを 1 つ削除する方法を示します。

```
switch# rmdir my_files
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>delete</b>	ファイルまたはディレクトリを削除します。
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

# run-script

コマンドライン インターフェイス (CLI) でコマンド スクリプト ファイルを実行するには、**run-script** コマンドを使用します。

```
run-script [filesystem:[/module/]][directory/]filename
```

## 構文の説明

<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前。名前では、大文字と小文字が区別されません。
<i>/module/</i>	(任意) スーパーバイザ モジュールの ID。有効な値は、 <b>sup-active</b> 、 <b>sup-local</b> 、 <b>sup-remote</b> または <b>sup-standby</b> です。ID では、大文字と小文字が区別されます。
<i>directory/</i>	(任意) ディレクトリの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	コマンドファイルの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

*filesystem://server/directory/filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

リモート デバイスでコマンド ファイルを作成し、**copy** コマンドで Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチにダウンロードする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コマンド スクリプト ファイルを実行する例を示します。

```
switch# run-script script-file
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>copy</b>	ファイルをコピーします。
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。

コマンド	説明
<code>echo</code>	端末にテスト文字列を表示します。
<code>pwd</code>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。
<code>sleep</code>	定義した秒数の間、CLI を一時停止します。

# save

現在のコンフィギュレーションセッションをファイルに保存するには、**save** コマンドを使用します。

**save location**

## 構文の説明

<i>location</i>	ファイルの場所。保存場所には、 <b>bootflash</b> または <b>volatile</b> を指定できます。ファイル名は、最大 63 文字の英数字で指定できます。
-----------------	--

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

セッション コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コンフィギュレーションセッションをブートフラッシュのファイルに保存する例を示します。

```
switch# configure session MySession
switch(config-s)# save bootflash:sessions/MySession
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>configure session</b>	コンフィギュレーションセッションを作成または修正します。
<b>delete</b>	指定位置からファイルを削除します。

# send

アクティブなユーザ セッションにメッセージを送信するには、**send** コマンドを使用します。

**send** [*session line*] *text*

## 構文の説明

<b>session line</b>	(任意) ユーザ セッションを指定します。
<b>text</b>	テキスト文字列。このテキスト文字列は最大 80 文字の英数字で、大文字と小文字を区別します。

## コマンド デフォルト

アクティブなすべてのユーザ セッションにメッセージを送信します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**show users** コマンドを使用すると、アクティブなユーザ セッションに関する情報を表示できます。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、スイッチでアクティブなすべてのユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send The system will reload in 15 minutes!  
The system will reload in 15 minutes!
```

次に、特定のユーザ セッションにメッセージを送信する例を示します。

```
switch# send session pts/0 You must log off the switch.
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show users</b>	スイッチでアクティブなユーザ セッションを表示します。

# setup

基本デバイス セットアップ ダイアログを開始するには、**setup** コマンドを使用します。

## setup [ficon]

<b>構文の説明</b>	<b>ficon</b> (任意) 基本 ficon セットアップ コマンド ファシリティを実行します。
--------------	--

<b>コマンドデフォルト</b>	なし
------------------	----

<b>コマンドモード</b>	EXEC モード
----------------	----------

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

<b>使用上のガイドライン</b>	<p>セットアップ スクリプトは、ユーザが設定した値ではなく、出荷時のデフォルト値を使用します。Ctrl+C を押すと、どの時点でもダイアログを終了できます。</p> <p>このコマンドには、ライセンスは必要ありません。</p>
-------------------	--

<b>例</b>	<p>次に、基本デバイス セットアップ スクリプトを開始する例を示します。</p> <pre>switch# setup</pre>
----------	--

<b>関連コマンド</b>	コマンド	説明
	<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。

# session-limit

デバイスの同時仮想ターミナルセッションの最大数を設定するには、**session-limit** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**session-limit sessions**

**no session-limit sessions**

## 構文の説明

<i>sessions</i>	セッションの最大数。有効な範囲は 1 ~ 64 です。
-----------------	-----------------------------

## コマンド デフォルト

32 セッション。

## コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、同時仮想ターミナルセッションの最大数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# session-limit 48
```

次に、同時仮想ターミナルセッションのデフォルトの最大数に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)# no session-limit 48
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>line vty</b>	仮想端末コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。

# show banner motd

Message-of-The-Day (MOTD) バナーを表示するには、**show banner motd** コマンドを使用します。

## show banner motd

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、MOTD バナーを表示する例を示します。

```
switch# show banner motd
Nexus 3000 Switch
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
banner motd	MOTD バナーを設定します。



# show boot

ブート変数の設定を表示するには、**show boot** コマンドを使用します。

**show boot [variables]**

## 構文の説明

<b>variables</b>	(任意) ブート変数のリストを表示します。
------------------	-----------------------

## コマンド デフォルト

設定されたすべてのブート変数を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、設定されたすべてのブート変数を表示する例を示します。

```
switch# show boot
```

次に、ブート変数名のリストを表示する例を示します。

```
switch# show boot variables
List of boot variables are:
  system
  kickstart
switch#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>boot</b>	キックスタート イメージまたはシステム イメージのブート変数を設定します。

# show cli alias

コマンドエイリアス設定を表示するには、**show cli alias** コマンドを使用します。

**show cli alias** [*name alias-name*]

## 構文の説明

<b>name</b> <i>alias-name</i>	(任意) コマンドエイリアスの名前を指定します。エイリアス名では、大文字と小文字の区別がありません。
-------------------------------	--

## コマンドデフォルト

設定されたすべてのコマンドエイリアス変数を表示します。

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、設定されたすべてのコマンドエイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias
CLI alias commands
=====
alias :show cli alias
switch#
```

次に、特定のコマンドエイリアスを表示する例を示します。

```
switch# show cli alias name ethint
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cli alias name</b>	コマンドエイリアスを設定します。

# show cli history

コマンドの履歴を表示するには、**show cli history** コマンドを使用します。

**show cli history** [*lines*] [*unformatted*]

## 構文の説明

<i>lines</i>	(任意) コマンド履歴の末尾から指定した行数を表示します。
<i>unformatted</i>	(任意) 行番号もタイム スタンプも含めずにコマンドを表示します。

## コマンド デフォルト

書式化された履歴全体を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コマンドの履歴全体を表示する例を示します。

```
switch# show cli history
0 08:32:13 sh feature
1 08:47:15 show ssh server
2 08:47:21 conf t
3 08:47:23 fea ssh
5 08:47:27 show ssh server
6 08:47:32 no fea ssh
7 08:47:58 show ssh names
8 08:59:24 policy-map type qos my_policy
9 08:59:39 show class type qos
10 08:59:51 class type qos class-default
11 08:59:59 class-map type qos cl
12 09:00:03 ex
<--Output truncated-->
switch#
```

次に、コマンド履歴の最後の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# show cli history 10
38 10:28:05 sho sprom all
39 10:29:40 show sprom sup
41 10:31:09 show sprom backplane
43 10:38:42 show system resources
44 10:39:28 show boot
46 10:39:36 show boot variables
47 10:40:20 show banner motd
48 10:40:45 sh cli alias
50 10:41:20 sh cli history
```

## ■ show cli history

```
52 10:43:03 sh cli history 10
switch#
```

次に、書式化されていないコマンド履歴を表示する例を示します。

```
switch# show cli history unformatted
```

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>clear cli history</b>	コマンドの履歴をクリアします。

# show cli variables

コマンドライン インターフェイス (CLI) 変数の設定を表示するには、**show cli variables** コマンドを使用します。

## show cli variables

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、CLI 変数を表示する例を示します。

```
switch# show cli variables
VSH Variable List
-----
SWITCHNAME="QS5"
TIMESTAMP="2010-05-22-10.44.20"
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
cli var name	CLI 変数を設定します。

# show clock

現在の日時を表示するには、**show clock** コマンドを使用します。

## show clock [detail]

構文の説明	<b>detail</b> (任意) サマータイム (夏時間) オフセットの設定を表示します。
-------	---

コマンドデフォルト	なし
-----------	----

コマンドモード	EXEC モード
---------	----------

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
------------	-------------------------

例	次に、現在のクロックの設定を表示する例を示します。
---	---------------------------

```
switch# show clock
10:44:44.891 UTC Sat May 22 2010
switch#
```

次に、現在のクロックの設定とサマータイム (夏時間) の設定を表示する例を示します。

```
switch# show clock detail
10:45:02.685 UTC Sat May 22 2010
switch#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>clock set</b>	クロックの時刻をセットします。
	<b>clock summer-time</b>	サマータイム (夏時間) オフセットを設定します。

# show configuration session

コンフィギュレーション セッションに関する情報を表示するには、**show configuration session** コマンドを使用します。

**show configuration session** [*session-name* | **status** | **summary**]

構文の説明	
<i>session-name</i>	(任意) コンフィギュレーション セッション名です。この名前には最大 64 文字までの英数字を指定できます。
<b>status</b>	(任意) コンフィギュレーション セッションのステータスを表示します。
<b>summary</b>	(任意) アクティブなコンフィギュレーション セッションに関する情報のサマリーを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例 次に、アクティブなコンフィギュレーション セッションのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show configuration session status
```

次に、アクティブなコンフィギュレーション セッションに関する情報のサマリーを表示する例を示します。

```
switch# show configuration session summary
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>configure session</b>	コンフィギュレーション セッションを作成します。

# show copyright

Cisco NX-OS ソフトウェアの著作権情報を表示するには、**show copyright** コマンドを使用します。

## show copyright

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco NX-OS の著作権情報を表示する例を示します。

```
switch# show copyright
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2011, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license. Certain components of this software are licensed under
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
show version	スイッチのソフトウェア バージョンを表示します。



# show debug logfile

デバッグ ログ ファイルの内容を表示するには、**show debug logfile** コマンドを使用します。

**show debug logfile** *filename*

## 構文の説明

<i>filename</i>	デバッグ ログ ファイルの名前。
-----------------	------------------

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ログ ファイルは log: ファイル システムにあります。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、デバッグ ログ ファイルの内容を表示する例を示します。  
switch# **show debug logfile dmesg**

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>debug logfile</b>	デバッグ ログ ファイルを設定します。

# show environment

ハードウェア環境のステータスに関する情報を表示するには、**show environment** コマンドを使用します。

**show environment [fan | power | temperature]**

## 構文の説明

<b>fan</b>	(任意) ファンの環境に関する情報を表示します。
<b>power</b>	(任意) 電力容量と配電に関する情報を表示します。
<b>temperature</b>	(任意) 温度環境に関する情報を表示します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ハードウェア環境に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show environment

Fan:
-----
Fan           Model           Hw           Status
-----
Chassis-1    N3K-C3064-FAN   --           ok
PS-1         N2200-PAC-400W  --           ok
PS-2         N5K-PAC-750W    --           failure

Temperature
-----
Module  Sensor  MajorThresh  MinorThres  CurTemp  Status
        (Celsius)  (Celsius)    (Celsius)
-----
1       D0       55           44          31       ok
1       D1       68           61          36       ok
1       D2       61           52          32       ok
1       D3       61           52          37       ok

<--Output truncated-->
switch#
```

次に、温度環境に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show environment temperature
```

```
Temperature
-----
Module   Sensor      MajorThresh  MinorThres  CurTemp     Status
          (Celsius)   (Celsius)   (Celsius)
-----
1        D0           55           44           32          ok
1        D1           68           61           36          ok
1        D2           61           52           32          ok
1        D3           61           52           37          ok
switch#
```

次に、ファンの環境に関する詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show environment fan detail
```

```
Fan:
-----
Module  Fan  Airflow      Speed (%)  Speed (RPM)
        Direction
-----
1       1   Front-to-Back  40         11739
1       2   Front-to-Back  40         8955
1       3   Front-to-Back  40         11637
1       4   Front-to-Back  40         9060
1       5   Front-to-Back  40         11764
1       6   Front-to-Back  40         8955
1       7   Front-to-Back  40         11894
1       8   Front-to-Back  40         9075
```

```
Power Supply:
```

```
-----
Module  Airflow      Configured
        Direction  Speed (RPM)
-----
1       Front-to-Back  9000
2       Back-to-Front  9000
switch#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show module</b>	モジュール情報を表示します。

# show feature

スイッチの機能のステータスを表示するには、**show feature** コマンドを使用します。

## show feature

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。
5.0(3)U2(2)	双方向フォワーディング検出 (BFD) および高精度時間プロトコル (PTP) のサポートが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco NX-OS Release 5.0(3)U1(1) を実行するスイッチのすべての機能の状態を表示する例を示します。

```
switch# show feature
Feature Name           Instance  State
-----
bgp                    1        disabled
dhcp                   1        disabled
eigrp                   1        disabled
eigrp                   2        disabled
eigrp                   3        disabled
eigrp                   4        disabled
hsrp_engine            1        disabled
interface-vlan         1        disabled
lACP                   1        disabled
ldap                   1        disabled
msdp                   1        disabled
ospf                    1        disabled
ospf                    2        disabled
ospf                    3        disabled
ospf                    4        disabled
pim                    1        disabled
private-vlan           1        disabled
privilege              1        disabled
rip                    1        disabled
rip                    2        disabled
rip                    3        disabled
rip                    4        disabled
sshServer              1        disabled
```

```

tacacs          1          disabled
telnetServer    1          enabled
udld            1          disabled
vrrp            1          disabled
vtp             1          disabled
switch#

```

次に、Cisco NX-OS Release 5.0(3)U2(2) を実行するスイッチのすべての機能の状態を表示する例を示します。

```

switch# show feature
Feature Name      Instance  State
-----
bfd               1         enabled
bfd_app           1         enabled
bgp               1         disabled
dhcp              1         disabled
eigrp             1         disabled
eigrp             2         disabled
eigrp             3         disabled
eigrp             4         disabled
fcoe-npv          1         disabled
hsrp_engine       1         disabled
interface-vlan    1         disabled
lacp              1         disabled
ldap              1         disabled
lldp              1         enabled
msdp              1         disabled
ospf              1         disabled
ospf              2         disabled
ospf              3         disabled
ospf              4         disabled
pim               1         disabled
poe               1         disabled
private-vlan      1         disabled
privilege         1         disabled
ptp               1         disabled
rip               1         disabled
rip               2         disabled
rip               3         disabled
rip               4         disabled
sshServer         1         disabled
tacacs            1         disabled
telnetServer      1         enabled
udld              1         disabled
vpc               1         disabled
vrrp              1         disabled
vtp               1         disabled
switch#

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>feature</b>	スイッチの機能をイネーブルまたはディセーブルにします。

# show file

ローカルメモリのファイルの内容を表示するには、**show file** コマンドを使用します。

```
show file [filesystem:] [//server/] [directory] filename
```

## 構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>debug</b> 、 <b>modflash</b> 、 <b>usb1</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	削除するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ファイルシステムの URL プレフィックス キーワード (**bootflash** など) の後にはコロン (:) が必要です。

*filesystem://server/directory/filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file base.lic
FEATURE LAN_BASE_SERVICES_PKG cisco 1 permanent uncounted \
      HOSTID=VDH=SSI14430C31 \
      NOTICE="<LicFileID>testFileName</LicFileID><LicLineID>0</LicLine
ID> \
      <PAK>dummyPak</PAK>" SIGN=3B68DB3CB4F0

switch#
```

この例は、表示するファイルがディレクトリである場合に表示されるエラー メッセージを示します。

```
switch# show file bootflash:///routing-sw
/bin/showfile: /bootflash/routing-sw: No such file or directory
```

```
switch#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

# show hardware internal cpu-mac

物理デバイス ハードウェアの MAC 情報を表示するには、**show hardware internal cpu-mac** コマンドを使用します。

**show hardware internal cpu-mac {inband | mgmt} {counters | stats}**

## 構文の説明

<b>inband</b>	インバンド ポート関連の情報を表示します。
<b>mgmt</b>	管理ポート関連情報を表示します。
<b>counters</b>	インバンド ポート カウンタを表示します。
<b>stats</b>	インバンド ポートの統計情報を表示します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、物理デバイス ハードウェアの MAC 関連のインバンド ポート カウンタを表示する例を示します。

```
switch# show hardware internal cpu-mac inband counters
eth3      Link encap:Ethernet HWaddr 02:10:18:09:27:43
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:9312 Metric:1
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:0 (0.0 b) TX bytes:0 (0.0 b)

eth4      Link encap:Ethernet HWaddr 02:10:18:09:27:44
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:9312 Metric:1
          RX packets:7060 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:56650 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:700436 (684.0 KiB) TX bytes:4007900 (3.8 MiB)

switch#
```

次に、物理デバイス ハードウェアの MAC 関連の管理ポート カウンタを表示する例を示します。

```
switch# show hardware internal cpu-mac mgmt counters
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:05:05:05:05:05
          inet addr:192.168.0.160 Bcast:192.168.0.255 Mask:255.255.255.0
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
```



```
RX packets:162662 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
TX packets:10206 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
collisions:0 txqueuelen:100
RX bytes:14866297 (14.1 MiB) TX bytes:1378804 (1.3 MiB)
```

```
switch#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>show hardware internal pci</b>	Peripheral Component Interconnect (PCI) バスとデバイス情報を表示します。
<b>show inventory</b>	ハードウェア インベントリ情報を表示します。
<b>show module</b>	モジュールに関する情報を表示します。

# show hardware internal pci

物理デバイス ハードウェアの Peripheral Component Interconnect (PCI) バスおよびデバイスの情報を表示するには、**show hardware internal pci** コマンドを使用します。

## show hardware internal pci

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、物理デバイス ハードウェアの PCI 情報を表示する例を示します。

```
switch# show hardware internal pci
0000:00:00.0 Host bridge: Intel Corporation: Unknown device 0044 (rev 18)
00: 86 80 44 00 46 01 90 20 18 00 00 06 00 00 00 00
10: 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
20: 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 86 80 44 00
30: 00 00 00 00 e0 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00

0000:00:01.0 PCI bridge: Intel Corporation: Unknown device 0045 (rev 18)
00: 86 80 45 00 47 01 10 00 18 00 04 06 10 00 01 00
10: 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 01 01 00 e0 e0 00 00
20: b0 fb b0 fb f1 ff 01 00 00 00 00 00 00 00 00 00
30: 00 00 00 00 88 00 00 00 00 00 00 00 0b 01 13 00

0000:00:02.0 VGA compatible controller: Intel Corporation: Unknown device 0046 (rev 18)
00: 86 80 46 00 07 00 90 00 18 00 00 03 00 00 00 00
<--Output truncated-->
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show hardware internal cpu-mac</b>	CPU-MAC の関連情報を表示します。
<b>show inventory</b>	ハードウェア インベントリ情報を表示します。
<b>show module</b>	モジュールに関する情報を表示します。

# show hostname

スイッチのホスト名を表示するには、**show hostname** コマンドを使用します。

## show hostname

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**show switchname** コマンドでも、スイッチのホスト名が表示されます。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、スイッチのホスト名を表示する例を示します。  
switch# **show hostname**

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>hostname</b>	スイッチのホスト名を設定します。
<b>show switchname</b>	ホスト名を表示します。
<b>switchname</b>	スイッチのホスト名を設定します。

# show incompatibility system

実行中のシステム イメージと、Cisco NX-OS ソフトウェアのダウングレード前のシステムイメージとの間の設定の互換性の問題を表示するには、**show incompatibility system** コマンドを使用します。

**show incompatibility system** {*filesystem*: //*server*/ [*directory*]} *filename*}

## 構文の説明

<i>filesystem</i> :	ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> または <b>volatile</b> です。
// <i>server</i> /	サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	ロードされたソフトウェア イメージと比較するファイルの名。ファイル名では、大文字と小文字が区別されます。



(注)

*filesystem*://*server*/*directory*/*filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、設定の互換性の問題を表示する例を示します。

```
switch# show incompatibility system bootflash://sup-local/old_image.bin
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>install all</b>	キックスタート イメージおよびシステム イメージをインストールします。
<b>reload</b>	デバイスに新しい Cisco NX-OS ソフトウェアをリロードします。
<b>show version</b>	ソフトウェア バージョンに関する情報を表示します。

# show install all

`install all` コマンドの動作に関連する情報を表示するには、`show install all` コマンドを使用します。

```
show install all {failure-reason | impact [kickstart | system] | status}
```

構文の説明	failure-reason	ソフトウェアをインストールできなかった理由を表示します。
	impact	ブート変数で参照されたイメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	kickstart	(任意) キックスタート ブート変数で参照されたキックスタート イメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	system	(任意) キックスタート ブート変数で参照されたシステム イメージのインストールが及ぼす影響を表示します。
	status	ソフトウェア インストール プロセスのステータスを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例 次に、インストールできなかった理由を表示する例を示します。

```
switch# show install all failure-reason
```

次に、新しいイメージのインストールが及ぼす影響を表示する例を示します。

```
switch# show install all impact
```

次に、ソフトウェアのインストール プロセスのステータスを表示する例を示します。

```
switch# show install all status
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>install all</code>	物理デバイスにソフトウェアをインストールします。
	<code>show boot</code>	ブート変数の設定を表示します。

# show inventory

スイッチ ハードウェアの物理インベントリ情報を表示するには、**show inventory** コマンドを使用します。

## show inventory

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

すべてのハードウェア インベントリ情報を表示します。

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、スイッチのハードウェア インベントリに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show inventory
NAME: "Chassis", DESCR: "Nexus3000 Chassis"
PID:                , VID:                , SN: SSI14430C31

NAME: "Module 1", DESCR: "48x10GE + 16x10G/4x40G Supervisor"
PID:                , VID:                , SN:

NAME: "Fan 1", DESCR: "Chassis fan module"
PID: N3K-C3064-FAN   , VID: N/A , SN: N/A

NAME: "Power supply 1", DESCR: "AC power supply"
PID: N2200-PAC-400W  , VID: V02 , SN: LIT14291UFS

NAME: "Power supply 2", DESCR: "AC power supply"
PID: N5K-PAC-750W    , VID: V01 , SN: LIT14291Q4B
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show hardware internal</b>	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
<b>show module</b>	モジュールに関する情報を表示します。

# show license

ライセンス情報を表示するには、**show license** コマンドを使用します。

**show license** [**brief** | **default** | **file filename**]

構文の説明	brief	(任意) デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示します。
	<b>default</b>	(任意) デフォルトのライセンスを使用するサービスを表示します。
	<b>file filename</b>	(任意) 特定のライセンス ファイルの情報を表示します。

**コマンド デフォルト** インストールされているライセンスに関する情報を表示します。

**コマンド モード** EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、スイッチにインストールされている特定のライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license file l3-license.lic
l3-license.lic:
FEATURE LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG cisco 1 permanent uncounted \
  HOSTID=VDH=SSI14430C31 \
  NOTICE="<LicFileID>testFileName</LicFileID><LicLineID>0</LicLineID> \
  <PAK>dummyPak</PAK>" SIGN=1B7020B6BAFA
```

```
switch#
```

次に、デバイスにインストールされているライセンス ファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# show license brief
base.lic
l3-license.lic
switch#
```

次に、デバイスにインストールされているすべてのライセンスを表示する例を示します。

```
switch# show license
```

次に、デフォルトのライセンスを使用するサービスを表示する例を示します。

```
switch# show license default
Feature                               Default License Count
-----
```

## ■ show license

```
LAN_BASE_SERVICES_PKG          -  
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG    -  
-----
```

```
switch#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>install license</b>	ライセンスをインストールします。
<b>show license host-id</b>	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。
<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。



# show license host-id

ライセンスに使用するスイッチ シャーシのシリアル番号（ホスト ID）を表示するには、**show license host-id** コマンドを使用します。

## show license host-id

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

シリアル番号は、例に示すようにコロン (:) の後に表示される文字列全体です。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、ノードにロックされたライセンスに必要なホスト ID を表示する例を示します。

```
switch# show license host-id
License hostid: VDH=SSI14430C31
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>install license</b>	ライセンスをインストールします。
<b>show license</b>	ライセンス情報を表示します。
<b>show license usage</b>	ライセンス使用情報を表示します。

# show license usage

ライセンス使用情報を表示するには、**show license usage** コマンドを使用します。

**show license usage** [*PACKAGE*]

構文の説明	<i>PACKAGE</i>	(任意) 指定したライセンス パッケージで使用中の、ライセンスされた機能のリストを表示します。
-------	----------------	---

**コマンドデフォルト** スイッチでのライセンスの使用状況を表示します。

**コマンドモード** EXEC モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、現在のライセンス使用に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show license usage
Feature                               Ins Lic  Status Expiry Date Comments
                                   Count
-----
LAN_BASE_SERVICES_PKG                Yes  -   Unused Never          -
LAN_ENTERPRISE_SERVICES_PKG          Yes  -   In use  Never          -
switch#
```

表 i-6 に、**show license usage** コマンド出力で使用されるカラムについて説明します。

表 i-6 show license usage のカラム

カラム	説明
Feature	ライセンス パッケージの名前。
Ins	ライセンス インストール ステータス。「No」はライセンスがインストールされていないことを示し、「Yes」はライセンスがインストールされていることを示します。
Lic Count	ライセンス数。「-」は、このライセンス パッケージでカウントが使用されていないことを示します。このフィールドの数字は、機能別のライセンスの現在の使用数を示します。このフィールドはサポートされていません。
Status	ライセンス ステータス。「Unused」は、ライセンスを必要とする機能がイネーブルでないことを示します。「In use」は、1 つ以上の機能がライセンスを使用していることを示します。

表 i-6 show license usage のカラム (続き)

カラム	説明
Expiry Date	ライセンスの有効期限。ライセンスがインストールされていない場合、このフィールドは空白です。ライセンスがインストールされている場合、このフィールドには、ライセンスの時間制限がないことを示す「Never」か、ライセンスの有効期限が表示されます。
Comments	その他の情報。日数（「D」）および時間（「H」）で残り期間を表す「Grace」は、猶予期間のあるライセンスを使用していることを示し、「license missing」は、エラーが発生していることを示します。

次に、特定のライセンスで使用中の機能のリストを表示する例を示します。

```
switch# show license usage LAN_BASE_SERVICES_PKG
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>install license</b>	ライセンスをインストールします。
<b>show license</b>	ライセンス情報を表示します。
<b>show license host-id</b>	ライセンスに使用するシャーシのシリアル番号を表示します。

# show line

端末ポートのコンフィギュレーション情報を表示するには、**show line** コマンドを使用します。

**show line [console [connected | user-input-string]]**

## 構文の説明

<b>console</b>	(任意) コンソール ポートの設定に関する情報だけ表示します。
<b>connected</b>	(任意) 現在ラインが物理的に接続されているかどうかを表示します。
<b>user-input-string</b>	(任意) ユーザ入力初期化文字列を表示します。

## コマンド デフォルト

端末ポートの設定に関する情報を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、端末ポート設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show line
line Console:
  Speed:          9600 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       1 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
  Modem Init-String -
    default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015

line Aux:
  Speed:          9600 baud
  Databits:       8 bits per byte
  Stopbits:       1 bit(s)
  Parity:         none
  Modem In:       Disable
  Modem Init-String -
    default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015
  Hardware Flowcontrol: ON

switch#
```

次に、コンソールポート設定に関する情報だけを表示する例を示します。

```
switch# show line console
line Console:
  Speed:          9600 baud
```

```
Databits:      8 bits per byte
Stopbits:     1 bit(s)
Parity:       none
Modem In:     Disable
Modem Init-String -
              default : ATE0Q1&D2&C1S0=1\015
```

```
switch#
```

次に、物理接続のステータスを表示する例を示します。

```
switch# show line console connected
Line console is connected
switch#
```

次に、モデムのユーザ入力初期化文字列を表示する例を示します。

```
switch# show line console user-input-string
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>line console</b>	コンソール ポート コンフィギュレーション モードを開始します。

# show module

モジュール情報を表示するには、**show module** コマンドを使用します。

**show module** [*module-number*]

## 構文の説明

*module-number* (任意) モジュール番号。有効な範囲は 1 ~ 3 です。

## コマンドデフォルト

スイッチ シャーシのすべてのモジュールに関するモジュール情報を表示します。

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、シャーシのすべてのモジュールに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show module
Mod Ports  Module-Type                Model                Status
-----
1      64      48x10GE + 16x10G/4x40G Superviso -SUP                active *
```

```
Mod Sw          Hw          World-Wide-Name(s) (WWN)
---
1      5.0(3)U1(1)  0.0        --
```

```
Mod  MAC-Address(es)                Serial-Num
---
1    0005.0505.050d to 0005.0505.0534
switch#
```

次に、特定のモジュールの情報を表示する例を示します。

```
switch# show module 1
Mod Ports  Module-Type                Model                Status
-----
1      64      48x10GE + 16x10G/4x40G Superviso -SUP                active *
```

```
Mod Sw          Hw          World-Wide-Name(s) (WWN)
---
1      5.0(3)U1(1)  0.0        --
```

```
Mod  MAC-Address(es)                Serial-Num
---
1    0005.0505.050d to 0005.0505.0534
switch#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show hardware internal</b>	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
<b>show inventory</b>	ハードウェア インベントリ情報を表示します。

# show processes

スイッチのプロセス情報を表示するには、**show processes** コマンドを使用します。

## show processes

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

スイッチで実行中のすべてのプロセスの情報を表示します。

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、デバイスのプロセス情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes
```

PID	State	PC	Start_cnt	TTY	Process
1	S	b7f9e468	1	-	init
2	S	0	1	-	migration/0
3	S	0	1	-	ksoftirqd/0
4	S	0	1	-	desched/0
5	S	0	1	-	migration/1
6	S	0	1	-	ksoftirqd/1
7	S	0	1	-	desched/1
8	S	0	1	-	events/0
9	S	0	1	-	events/1
10	S	0	1	-	khelper
15	S	0	1	-	kthread
24	S	0	1	-	kacpid
182	S	0	1	-	kblockd/0
183	S	0	1	-	kblockd/1
196	S	0	1	-	khubd

```
<--Output truncated-->
```

```
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show processes cpu</b>	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。



コマンド	説明
<b>show processes log</b>	プロセス ログの内容を表示します。
<b>show processes memory</b>	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

# show processes cpu

デバイス上のプロセスの CPU 使用率情報を表示するには、**show processes cpu** コマンドを使用します。

## show processes cpu

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

ローカル デバイスのすべてのプロセスの情報を表示します。

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、プロセスの CPU 使用率情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes cpu

PID      Runtime(ms)   Invoked      uSecs   1Sec   Process
-----
1         415          18901        21      0.0%   init
2         10           3931         2       0.0%   migration/0
3        2282       45391585     0       0.0%   ksoftirqd/0
4         26           7882         3       0.0%   desched/0
5         9            3706         2       0.0%   migration/1
6         596       23862071     0       0.0%   ksoftirqd/1
7         23           6629         3       0.0%   desched/1
:
<--snip-->
:
15250      1            2           525     0.0%   vsh
15251     18            5          3777    0.0%   ps

CPU util   :   5.9% user,   0.5% kernel,   93.6% idle
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
show processes	スイッチのプロセス情報を表示します。

コマンド	説明
<b>show processes log</b>	プロセス ログの内容を表示します。
<b>show processes memory</b>	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

# show processes log

プロセス ログの内容を表示するには、**show processes log** コマンドを使用します。

**show processes log [details | pid process-id]**

## 構文の説明

<b>details</b>	(任意) プロセス ログにある詳細情報を表示します。
<b>pid process-id</b>	(任意) 特定のプロセスのプロセス ログにある詳細情報を表示します。有効なプロセス ID の範囲は 1 ~ 2147483647 です。

## コマンド デフォルト

デバイス上のすべてのプロセスの情報の要約を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、プロセス ログにある情報の要約を表示する例を示します。

```
switch# show processes log
Process          PID      Normal-exit  Stack  Core  Log-create-time
-----
bcm_usd          4181     N            Y      N      Sun Jan 31 19:15:44 2010
bcm_usd          4294     N            Y      N      Sun May 23 09:10:22 2010
bcm_usd          4313     N            Y      N      Mon Apr 12 09:24:59 2010
bcm_usd          4331     N            Y      N      Mon Apr 12 07:17:09 2010
carmelusd       4156     N            N      N      Fri Feb 12 18:58:29 2010
carmelusd       4468     N            N      N      Fri Feb 12 23:48:48 2010
ethpm           4471     N            N      N      Sun May 2 05:02:54 2010
fwm             4195     N            Y      N      Sun Jan 31 16:19:10 2010
fwm             4345     N            Y      N      Mon May 3 12:54:59 2010
ipfib           4360     N            Y      N      Mon Apr 12 07:16:58 2010
ipfib           4367     N            Y      N      Mon Apr 12 09:24:49 2010
ipqosmgr        4326     N            Y      N      Fri May 21 19:44:02 2010
<--Output truncated-->
switch#
```

次に、プロセス ログにある詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes log details
```

次に、特定のプロセスのプロセス ログにある詳細情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes log pid 4181
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show processes</b>	スイッチのプロセス情報を表示します。
<b>show processes cpu</b>	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
<b>show processes memory</b>	プロセスのメモリ割り当て情報を表示します。

# show processes memory

プロセスのメモリ割り当て情報を表示するには、**show processes memory** コマンドを使用します。

**show processes memory [shared [detail]]**

## 構文の説明

<b>shared</b>	(任意) 共有メモリの割り当てを表示します。
<b>detail</b>	(任意) 共有メモリを、デフォルトのキロバイト単位でなく、バイト単位で表示します。

## コマンド デフォルト

プロセスに割り当てられたメモリを表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、プロセスのメモリ割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes memory
```

PID	MemAlloc	StkSize	RSSMem	LibMem	StackBase/Ptr	Process
1	147456	86016	495616	1126400	bffffea0/bffff990	init
2	0	0	0	0	0/0	migration/0
3	0	0	0	0	0/0	ksoftirqd/0
4	0	0	0	0	0/0	desched/0
5	0	0	0	0	0/0	migration/1
6	0	0	0	0	0/0	ksoftirqd/1
7	0	0	0	0	0/0	desched/1
8	0	0	0	0	0/0	events/0
9	0	0	0	0	0/0	events/1
10	0	0	0	0	0/0	khelper
15	0	0	0	0	0/0	kthread

```
<--Output truncated-->
```

```
switch#
```

次に、プロセスの共有メモリの割り当てに関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show processes memory shared
```

Component	Shared Memory Address	Size (kbytes)	Used (kbytes)	Available (kbytes)	Ref Count
smm	0X50000000	1024	3	1021	36
cli	0X50110000	30720*	12530	18190	11
npacl	0X51F20000	4096*	2	4094	2
am	0X52330000	1024*	83	941	6

```

u6rib-ufdm          0X52440000      320*           188           132           2
urib                0X524A0000     32768*         734          32034         18
mrib                0X544B0000     59392*         3238         56154         4
urib-redis         0X57EC0000     4096*          0            4096         18
mrib-mfdm          0X582D0000     4096*          9            4087          2
urib-ufdm          0X586E0000     2048*          0            2048          2
u6rib              0X588F0000     16384*         545          15839         9
u6rib-notify       0X59900000     2048*          795          1253          9
icmpv6             0X59B10000     1024           0            1024          6
ip                  0X59C20000     2048           65           1983         16
ipv6                0X59E30000     1024           9            1015          7
igmp                0X59F40000     4096*         1173         2923          2
rpm                 0X5A350000     1024           0            1024          7
mcastfwd           0X5A460000     1024           146           878           3
pim                 0X5A570000     2048           225           1823          4
bgp                 0X5A780000     1024           464           560           1
    
```

Shared memory totals - Size: 168 MB, Used: 20 MB, Available: 148 MB

'+' - Dynamic shared memory segment.

'\*' - Non-default sized share memory segment.

switch#

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show processes</b>	スイッチのプロセス情報を表示します。
<b>show processes cpu</b>	プロセスの CPU 使用率情報を表示します。
<b>show processes log</b>	プロセス ログの内容を表示します。

# show running-config

実行コンフィギュレーションを表示するには、**show running-config** コマンドを使用します。

**show running-config [all]**

## 構文の説明

**all** (任意) デフォルトの情報および設定された情報をすべて表示します。

## コマンドデフォルト

設定されている情報だけを表示します。

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ユーザが実行コンフィギュレーションに加えた変更を表示する例を示します。

```
switch# show running-config

!Command: show running-config
!Time: Thu Jun  3 09:12:13 2010

version 5.0(3)U1(1)
feature telnet
feature bgp
feature interface-vlan
feature hsrp

username admin password 5 $1$qlbQ8MOW$/WpKb10E1R6BwZU9yfFL51 role network-admin
ip domain-lookup
hostname QS5
hardware profile multicast max-limit 2000
policy-map type network-qos jumbo
  class type network-qos class-default
    mtu 9216
system qos
  service-policy type network-qos jumbo
slot 2
slot 22
slot 39
<--Output truncated-->
switch#
```

次に、デフォルト値を含む、実行コンフィギュレーション全体を表示する例を示します。

```
switch# show running-config all
```



```
!Command: show running-config all
!Time: Thu Jun  3 09:14:34 2010

version 5.0(3)U1(1)
license grace-period

feature telnet
feature ssh
cfs distribute
cfs ipv4 mcast-address 239.255.70.83
cfs ipv6 mcast-address ff15::efff:4653
no cfs ipv4 distribute
no cfs ipv6 distribute
feature bgp
feature interface-vlan
feature hsrp
no hsrp timers extended-hold

username admin password 5 $1$qlbQ8M0w$/WpKb10E1R6BwZU9yfFL51 role network-admin
password strength-check
<--Output truncated-->
switch#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<b>show running-config diff</b>	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
<b>show startup-config</b>	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

# show running-config diff

実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示するには、**show running-config diff** コマンドを使用します。

## show running-config diff

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

表 i-7 では、コマンド出力で使用される表記法を説明しています。

表 i-7 show running-config diff の表記法

表記法	説明
***** --- line1, line2 ---- *** line1, line2 ****	差異を含む行の範囲を示します。アスタリスク (*) が示す範囲の行はスタートアップ コンフィギュレーションの行で、ダッシュ (-) が示す範囲の行はスタートアップ コンフィギュレーションの行です。
+ text	この行が、実行コンフィギュレーションにはあるが、スタートアップ コンフィギュレーションにはないことを示します。
- text	この行が、実行コンフィギュレーションにはないが、スタートアップ コンフィギュレーションにはあることを示します。
! text	この行が両方のコンフィギュレーションにあるが、順番が異なっていることを示します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションとの差異を表示する例を示します。

```
switch# show running-config diff
*** Startup-config
--- Running-config
*****
*** 5,19 ****

version 5.0(3)U1(1)
```

```

feature telnet
feature bgp
feature interface-vlan

- username adminbackup password 5 ! role network-operator
  username admin password 5 $1$q1bQ8M0w$/WpKb10E1R6BwZU9yfFL51 role network-adm
in
ip domain-lookup
hostname QS5
policy-map type network-qos jumbo
  class type network-qos class-default
    mtu 9216
system qos
  service-policy type network-qos jumbo
--- 4,19 ----

version 5.0(3)U1(1)
feature telnet
feature bgp
<--Output truncated-->
switch#

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。
<b>show startup-config</b>	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。

# show sprom

スイッチの Serial PROM (SPROM; シリアル PROM) の内容を表示するには、**show sprom** コマンドを使用します。

**show sprom** {**all** | **backplane** | **module** *module-number* | **powersupply** *ps-num* | **sup**}

## 構文の説明

<b>all</b>	物理デバイス上にあるすべてのコンポーネントの SPROM の内容を表示します。
<b>backplane</b>	バックボーン の SPROM の内容を表示します。
<b>module</b> <i>module-number</i>	I/O モジュールの SPROM の内容を表示します。有効なモジュール番号の範囲は 1 ~ 3 です。
<b>powersupply</b> <i>ps-num</i>	電源モジュールの SPROM の内容を表示します。有効な電源モジュール番号は 1 または 2 です。
<b>sup</b>	アクティブなスーパーバイザ モジュールの SPROM の内容を表示します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

スイッチの SPROM には、シリアル番号、部品番号、リビジョン番号を含む、ハードウェアの詳細情報が含まれます。システム コンポーネントの問題を報告する必要がある場合は、**show sprom** コマンドを使用してシリアル番号情報を抽出できます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、物理デバイス上のすべてのコンポーネントの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom all
DISPLAY backplane sprom contents:
Common block:
Block Signature : 0xabab
Block Version   : 3
Block Length    : 160
Block Checksum  : 0xd2a
EEPROM Size     : 65535
Block Count     : 4
FRU Major Type  : 0x0
FRU Minor Type  : 0x0
OEM String      : Cisco Systems, Inc.
Product Number  :
Serial Number   : SSI14430C31
<--Output truncated-->
```

```
switch#
```

次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom sup
DISPLAY supervisor sprom contents:
Common block:
  Block Signature : 0xabab
  Block Version  : 3
  Block Length   : 160
  Block Checksum : 0xa97
  EEPROM Size    : 65535
  Block Count    : 3
  FRU Major Type : 0x0
  FRU Minor Type : 0x0
  OEM String     : Cisco Systems, Inc.
  Product Number :
  Serial Number  :
  Part Number    :
  Part Revision  :
  Mfg Deviation  :
  H/W Version    : 0.0
  Mfg Bits       : 0
  Engineer Use   : 0
  snmpOID        : 0.0.0.0.0.0.0.0
  Power Consump  : 0
  RMA Code       : 0-0-0-0
  CLEI Code      :
  VID            :
Supervisor Module specific block:
  Block Signature : 0x6002
<--Output truncated-->
switch#
```

次に、電源モジュールの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom powersupply 2
DISPLAY power-supply sprom contents:
Common block:
  Block Signature : 0xabab
  Block Version  : 3
  Block Length   : 160
  Block Checksum : 0x183c
  EEPROM Size    : 65535
  Block Count    : 2
  FRU Major Type : 0xab01
  FRU Minor Type : 0x0
  OEM String     : Cisco Systems, Inc.
  Product Number : N5K-PAC-750W
  Serial Number  : LIT14291Q4B
  Part Number    : 341-0361-01
  Part Revision  : A0
<--Output truncated-->

switch#
```

次に、バックプレーンの SPROM 情報を表示する例を示します。

```
switch# show sprom backplane
DISPLAY backplane sprom contents:
Common block:
  Block Signature : 0xabab
  Block Version  : 3
  Block Length   : 160
  Block Checksum : 0xd2a
```

## ■ show sprom

```

EEPROM Size      : 65535
Block Count     : 4
FRU Major Type  : 0x0
FRU Minor Type  : 0x0
OEM String      : Cisco Systems, Inc.
Product Number  :
Serial Number   : SSI14430C31
Part Number     :
Part Revision   :
Mfg Deviation   :
H/W Version     : 0.0
Mfg Bits       : 0
Engineer Use    : 0
snmpOID        : 0.0.0.0.0.0.0.0
Power Consump   : 0
RMA Code       : 0-0-0-0
CLEI Code      :
VID            :
Chassis specific block:
Block Signature : 0x6001
<--Output truncated-->
switch#

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show hardware internal</b>	物理ハードウェアに関する情報を表示します。
<b>show inventory</b>	ハードウェア インベントリ情報を表示します。

# show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーションを表示するには、**show startup-config** コマンドを使用します。

## show startup-config

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# show startup-config

!Command: show startup-config
!Time: Thu Jun  3 09:17:23 2010
!Startup config saved at: Wed Jun  2 08:25:11 2010

version 5.0(3)U1(1)
feature telnet
feature bgp
feature interface-vlan

username adminbackup password 5 ! role network-operator
username admin password 5 $1$qlbQ8MOW$/WpKb1OE1R6BwZU9yfFL51 role network-admin
ip domain-lookup
hostname QS5
policy-map type network-qos jumbo
  class type network-qos class-default
    mtu 9216
system qos
  service-policy type network-qos jumbo
slot 2
slot 22
<--Output truncated-->
switch#
```

## ■ show startup-config

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。
<b>show running-config diff</b>	実行コンフィギュレーションとスタートアップ コンフィギュレーションの差異を表示します。



# show switchname

デバイスのホスト名を表示するには、**show switchname** コマンドを使用します。

## show switchname

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

**show hostname** コマンドでも、スイッチのホスト名が表示されます。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、スイッチのホスト名を表示する例を示します。

```
switch# show switchname
switch
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>hostname</b>	スイッチのホスト名を設定します。
<b>show hostname</b>	ホスト名を表示します。
<b>switchname</b>	スイッチのホスト名を設定します。

# show system cores

コア ファイル名を表示するには、**show system cores** コマンドを使用します。

## show system cores

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

システム コア ファイル名を設定するには、**system cores** コマンドを使用します。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、システム コア ファイルの宛先情報を表示する例を示します。

```
switch# show system cores
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>system cores</b>	システム コア ファイル名を設定します。

# show system reset-reason

スイッチのリセット履歴を表示するには、**show system reset-reason** コマンドを使用します。

## show system reset-reason

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、スイッチのリセット理由の履歴を表示する例を示します。

```
switch# show system reset-reason
----- reset reason for Supervisor-module 1 (from Supervisor in slot 1) ---
1) No time
   Reason: Unknown
   Service:
   Version: 5.0(3)U1(1)

2) No time
   Reason: Unknown
   Service:
   Version: 5.0(3)U1(1)

3) At 543557 usecs after Fri Jul  9 18:20:45 2010
   Reason: Reset due to upgrade
   Service:
   Version: 5.0(3)U1(1)

4) At 572283 usecs after Fri Jul  9 05:12:27 2010
   Reason: Reset due to upgrade
   Service:
   Version: 5.0(3)U1(1)

switch#
```

■ show system reset-reason

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>clear install failure-reason</code>	ソフトウェアのインストール失敗の理由をクリアします。

# show system resources

システム リソースを表示するには、**show system resources** コマンドを使用します。

## show system resources

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

任意のコマンド モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、Cisco NX-OS Release 5.0(3)U1(1) を実行しているスイッチのシステム リソースを表示する例を示します。

```
switch(config)# show system resources
Load average: 1 minute: 0.18 5 minutes: 0.15 15 minutes: 0.10
Processes : 296 total, 1 running
CPU states : 15.8% user, 2.0% kernel, 82.2% idle
Memory usage: 4007124K total, 1327428K used, 2679696K free

switch(config)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show processes cpu</b>	デバイスのプロセスに対する CPU 使用率の情報を表示します。

# show system uptime

最後にシステムを再起動した後に経過した時間を表示するには、**show system uptime** コマンドを使用します。

## show system uptime

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、最後にシステムを再起動した後に経過した時間を表示する例を示します。

```
switch# show system uptime
System start time:      Wed Jun  2 10:41:07 2010
System uptime:         0 days, 22 hours, 38 minutes, 7 seconds
Kernel uptime:         0 days, 22 hours, 40 minutes, 15 seconds
Active supervisor uptime: 0 days, 22 hours, 38 minutes, 7 seconds
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
reload	スイッチをリロードします。

# show tech-support

シスコ テクニカル サポートの情報を表示するには、**show tech-support** コマンドを使用します。

**show tech-support** [**brief** | **commands** | *feature*]

## 構文の説明

<b>brief</b>	(任意) デバイスのステータスに関する情報だけを表示します。
<b>commands</b>	(任意) <b>show tech-support</b> コマンドによって実行されるコマンドの完全なリストを表示します。
<i>feature</i>	(任意) 特定の機能名を指定します。機能のリストを表示するには、コマンドライン インターフェイス (CLI) 状況依存ヘルプ ( <b>show tech-support ?</b> など) を使用します。

## コマンド デフォルト

すべての機能の情報を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

**show tech-support** コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモート ファイル システムで、この出力をファイルにリダイレクトします (たとえば、**show tech-support > filename**)。

リダイレクトには、次のいずれかの方法を使用できます。

- **> filename** : 出力をファイルにリダイレクトします。
- **>> filename** : 出力をファイルに、アペンド モードでリダイレクトします。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、テクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support
---- show tech-support ----
`show switchname`
QS5
`show system uptime`
System start time:      Wed Jun  2 10:41:07 2010
System uptime:         0 days, 22 hours, 38 minutes, 48 seconds
Kernel uptime:        0 days, 22 hours, 40 minutes, 56 seconds
Active supervisor uptime: 0 days, 22 hours, 38 minutes, 48 seconds
`show interface mgmt0`
mgmt0 is up
<--Output truncated-->
switch#
```

## show tech-support

次に、テクニカル サポートの情報をファイルにリダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > bootflash:TechSupport.txt
```

次に、スイッチの簡単なテクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support brief
Switch Name       : switch
Switch Type      :
Kickstart Image   : 5.0(3)U1(1) bootflash:///n3000-uk9-kickstart.5.0.3.U1.1.bin
System Image      : 5.0(3)U1(1) bootflash:///n3000-uk9.5.0.3.U1.1.bin
IP Address/Mask   : 192.168.0.160/24
```

```
-----
Ethernet          VLAN   Type Mode   Status Reason                               Speed   Port
Interface                                                Ch #
-----
Eth1/1            1     eth  access down  Administratively down           10G(D)  --
Eth1/2            1     eth  access up    none                             10G(D)  --
Eth1/3            1     eth  access down  SFP not inserted                10G(D)  --
<--Output truncated-->
switch#
```

次に、特定の機能のテクニカル サポート情報を表示する例を示します。

```
switch# show tech-support aaa
`show running-config aaa all`

!Command: show running-config aaa all
!Time: Thu Jun  3 09:21:28 2010

version 5.0(3)U1(1)
aaa authentication login default local
aaa authorization ssh-publickey default local
aaa authorization ssh-certificate default local
aaa accounting default local
aaa user default-role
aaa authentication login default fallback error local
aaa authentication login console fallback error local
no aaa authentication login error-enable
no aaa authentication login mschap enable
no aaa authentication login mschapv2 enable
no aaa authentication login chap enable
no aaa authentication login ascii-authentication
no radius-server directed-request

`show system internal aaa event-history msgs`
1) Event:E_MTS_RX, length:60, at 991227 usecs after Thu Jun  3 09:21:28 2010
<--Output truncated-->
switch#
```

次に、テクニカル サポート情報を生成するために使用するコマンドを表示する例を示します。

```
switch# show tech-support commands
show tech-support details:
~~~~~
---- show tech-support commands ----
show switchname
show system uptime
show interface mgmt0
show system resources
show version
dir bootflash:
```



```
show inventory
show diagnostic result module all
show logging log
show module
<--Output truncated-->
switch#
```

# show terminal

セッションの端末設定に関する情報を表示するには、**show terminal** コマンドを使用します。

## show terminal

### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド モード

EXEC モード

### コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

### 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

### 例

次に、セッションの端末設定に関する情報を表示する例を示します。

```
switch# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "ansi"
Length: 25 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 0 minutes
Event Manager CLI event bypass: no
Redirection mode: ascii
switch#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>terminal length</b>	セッションの端末表示長を設定します。
<b>terminal session-timeout</b>	セッションの端末非アクティブセッション タイムアウトを設定します。
<b>terminal type</b>	セッションの端末タイプを設定します。
<b>terminal width</b>	セッションの端末表示幅を設定します。

# show version

ソフトウェア バージョンに関する情報を表示するには、**show version** コマンドを使用します。

**show version** [*image filename*]

## 構文の説明

**image filename** (任意) システム イメージ ファイルまたはキックスタート イメージ ファイルのバージョン情報を表示します。

## コマンド デフォルト

実行中のキックスタート イメージおよびシステム イメージのソフトウェア バージョン情報を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、スイッチで実行中の、キックスタート イメージおよびシステム イメージのバージョン情報を表示する例を示します。

```
switch# show version
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2010, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained herein are owned by
other third parties and are used and distributed under license.
Some parts of this software are covered under the GNU Public
License. A copy of the license is available at
http://www.gnu.org/licenses/gpl.html.

Software
  BIOS:          version 1.3.0
  loader:        version N/A
  kickstart:     version 5.0(3)U1(1)
  system:        version 5.0(3)U1(1)
  power-seq:     version v1.2
  BIOS compile time:      09/08/09
  kickstart image file is: bootflash:/n3000-uk9-kickstart.5.0.3.U1.1.bin
  kickstart compile time: 7/28/2010 11:00:00 [07/07/2010 22:20:39]
  system image file is:   bootflash:/n3000-uk9.5.0.3.U1.1.bin
  system compile time:    7/28/2010 11:00:00 [07/07/2010 23:47:55]

Hardware
  cisco Nexus5020 Chassis ("40x10GE/Supervisor")
  Intel(R) Xeon(R) CPU          with 2074288 kB of memory.
```

## ■ show version

```
Processor Board ID JAF1344BHNK

Device name: NEXUS5K-1
bootflash: 1003520 kB

Kernel uptime is 0 day(s), 9 hour(s), 9 minute(s), 7 second(s)

Last reset
Reason: Unknown
System version: 5.0(3)U1(1)
Service:

plugin
Core Plugin, Ethernet Plugin, Fc Plugin
switch#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show module</b>	モジュール情報を表示します。

# sleep

コマンドライン インターフェイス (CLI) が、プロンプトを表示する前に一時停止するよう設定するには、**sleep** コマンドを使用します。

**sleep** *seconds*

構文の説明	<i>seconds</i>	秒数。有効な範囲は 0 ~ 2147483647 です。
-------	----------------	------------------------------

コマンド デフォルト	なし
------------	----

コマンド モード	EXEC モード
----------	----------

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドをコマンド スクリプトで使用すると、スクリプトの実行を遅らせることができます。 このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
------------	--

例	次に、プロンプトを表示する前に CLI を 5 秒間、一時停止させる例を示します。 <pre>switch# sleep 5</pre>
---	---

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>run-script</b>	コマンドスクリプトを実行します。

# slot

シャーシのスロットの事前プロビジョニングをイネーブルにするには、**slot** コマンドを使用します。スロットの事前プロビジョニングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**slot slot-number**

**no slot slot-number**

## 構文の説明

*slot-number* シャーシのスロット番号。有効な範囲は 2 ～ 199 です。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード  
コンフィギュレーション同期モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、シャーシのスロットでモジュールの機能またはインターフェイスの事前プロビジョニングをイネーブルにするために使用します。事前プロビジョニングにより、モジュールをスイッチのシャーシに挿入する前に、モジュールの機能またはインターフェイス（イーサネット、ファイバチャネル）を設定できます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、シャーシのスロットでモジュールの事前プロビジョニングをイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# slot 2
switch(config-slot)#
```

次に、シャーシのスロットでモジュールの事前プロビジョニングがイネーブルになるようにスイッチプロファイルを設定する例を示します。

```
switch# config sync
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
switch(config-sync)# switch-profile sp
Switch-Profile started, Profile ID is 1
switch(config-sync-sp)# slot 2
switch(config-sync-sp-slot)#
```

次に、シャーシのスロットでモジュールの事前プロビジョニングをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no slot 2
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>provision</b>	スロット内のモジュールの事前プロビジョニングを行います。
<b>show running-config exclude-provision</b>	事前プロビジョニングされた機能を除く実行コンフィギュレーションを表示します。

# speed

コンソール ポートの送受信速度を設定するには、**speed** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**speed** *speed*

**no speed** *speed*

## 構文の説明

<i>speed</i>	速度をビット/秒単位で指定します。有効な速度は 300、1200、2400、4800、9600、19200、38400、57600 または 115200 です。
--------------	--

## コマンド デフォルト

デフォルトのコンソール ポート速度は 9600 ビット/秒単位です。

## コマンド モード

端末ライン コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コンソール ポートの速度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# speed 57600
```

次に、コンソール ポートのデフォルトの速度に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no speed 57600
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>line console</b>	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。



# stopbits

コンソール ポートのストップ ビットを設定するには、**stopbits** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**stopbits** {1 | 2}

**no stopbits** {1 | 2}

構文の説明	1	2
	1 ストップ ビットを指定します。	2 ストップ ビットを指定します。

**コマンド デフォルト** 1 ストップ ビット

**コマンド モード** 端末ライン コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** コンソール ポートは、コンソール ポート上のセッションだけから設定可能です。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、コンソール ポートのストップ ビット数を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# stopbits 2
```

次に、コンソール ポートのストップ ビット数をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)# no stopbits 2
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<b>line console</b>	コンソール端末コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>show running-config</b>	実行コンフィギュレーションを表示します。

# switchname

デバイスのホスト名を設定するには、**switchname** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**switchname** *name*

**no switchname**

## 構文の説明

<i>name</i>	スイッチのホスト名。この名前は、最大 32 文字の長さの英数字で、大文字と小文字が区別され、特殊文字を含むことができます。
-------------	---

## コマンド デフォルト

デフォルトのホスト名は「switch」です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

Cisco NX-OS ソフトウェアは、コマンドライン インターフェイス (CLI) プロンプト、およびデフォルトのコンフィギュレーション ファイル名でホスト名を使用します。

**switchname** コマンドは、**hostname** コマンドと同じ機能を実行します。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチのホスト名を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# switchname Engineering2
Engineering2(config)#
```

次に、デフォルトのホスト名に戻す例を示します。

```
Engineering2# configure terminal
Engineering2(config)# no switchname
switch(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>hostname</b>	スイッチのホスト名を設定します。
<b>show hostname</b>	スイッチのホスト名を表示します。
<b>show switchname</b>	スイッチのホスト名を表示します。

# system cores

システム コアの宛先を設定するには、**system cores** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
system cores tftp:tftp_URL [vrf management]
```

```
no system cores
```

## 構文の説明

<b>tftp:</b>	TFTP サーバを指定します。
<i>tftp_URL</i>	宛先のファイル システムおよびファイルの URL を指定します。次の形式を使用します。  <i>[//server[:port]][/path/]filename</i>
<b>vrf management</b>	(任意) 管理 Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を使用するよう指定します。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、コア ファイルを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system cores tftp://serverA:69/core_file
```

次に、システム コア ログインをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no system cores
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show system cores</b>	コア ファイル名を表示します。

# system startup-config unlock

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを解除するには、**system startup-config unlock** コマンドを使用します。

**system startup-config unlock *process-id***

<b>構文の説明</b>	<i>process-id</i>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルをロックしたプロセスの ID。
--------------	-------------------	---

<b>コマンド デフォルト</b>	なし
-------------------	----

<b>コマンド モード</b>	EXEC モード
-----------------	----------

<b>コマンド履歴</b>	リリース	変更箇所
	5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

**使用上のガイドライン** スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを表示するには、**show system internal sysmgr startup-config locks** コマンドを使用します。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

**例** 次に、スタートアップ コンフィギュレーション ファイルのロックを解除する例を示します。  
switch# **system startup-config unlock 10**

<b>関連コマンド</b>	コマンド	説明
	<b>show startup-config</b>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルの情報を表示します。

# tail

ファイルの末尾の行を表示するには、**tail** コマンドを使用します。

```
tail [filesystem: [//server/]] [directory] filename [lines]
```

## 構文の説明

<i>filesystem:</i>	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> 、 <b>modflash</b> または <b>volatile</b> です。
<i>//server/</i>	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ ( <b>//</b> ) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>filename</i>	表示するファイルの名前。ファイル名では、大文字と小文字が区別されません。
<i>lines</i>	(任意) 表示する行数。有効な範囲は <b>0 ~ 80</b> です。



(注)

*filesystem://server/directory/filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

末尾の 10 行を表示します。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ファイルの末尾の 10 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg
```

次に、ファイルの末尾の 20 行を表示する例を示します。

```
switch# tail bootflash:startup.cfg 20
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>cd</b>	現在の作業ディレクトリを変更します。
<b>copy</b>	ファイルをコピーします。
<b>dir</b>	ディレクトリの内容を表示します。
<b>pwd</b>	現在の作業ディレクトリ名を表示します。

# terminal length

現在のセッションの端末画面で出力が一時停止する前に表示する出力行数を設定するには、**terminal length** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**terminal length lines**

**terminal no length**

## 構文の説明

<i>lines</i>	表示する行数。有効な範囲は 0 ~ 511 です。出力の表示中に一時停止しないようにするには 0 を指定します。
--------------	--

## コマンド デフォルト

コンソールの初期デフォルト値は 0（出力を一時停止しない）です。仮想ターミナルセッションの初期デフォルト値はクライアント ソフトウェアにより定義されます。no 形式のデフォルト値は 24 行です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

セッションは、**terminal length** で設定された数の行を表示した後に一時停止します。次の行画面を表示するにはスペースバーを押します。または、Enter キーを押すと、次の行が表示されます。コマンドプロンプトに戻るには、Ctrl+C を押します。

端末の行数の設定は、現在のセッションだけに適用されます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、一時停止する前に端末に表示されるコマンド出力の行数を設定する例を示します。

```
switch# terminal length 28
```

次に、デフォルトの行数に戻す例を示します。

```
switch# terminal no length
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	ターミナルセッションの設定を表示します。

# terminal session-timeout

現在のセッションの端末無活動タイムアウトを設定するには、**terminal session-timeout** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**terminal session-timeout** *minutes*

**terminal no session-timeout**

## 構文の説明

*minutes* 分単位での時間。有効な範囲は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。端末無活動タイムアウトをディセーブルにするには、0 を指定します。

## コマンド デフォルト

ターミナルセッションタイムアウトはディセーブルです (0 分)。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

ターミナルセッション無活動タイムアウトの設定は、現在のセッションだけに適用されます。このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、セッションの端末無活動タイムアウトを 10 分に設定する例を示します。

```
switch# terminal session-timeout 10
```

次に、セッションのデフォルトの端末無活動タイムアウトに戻す例を示します。

```
switch# terminal no session-timeout
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	ターミナルセッションの設定を表示します。



# terminal terminal-type

現在のセッションの端末タイプを設定するには、**terminal terminal-type** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**terminal terminal-type type**

**terminal no terminal-type**

## 構文の説明

<i>type</i>	端末のタイプ。タイプ文字列は、最大 80 文字の長さで、大文字と小文字が区別されます。また、有効なタイプ (ansi、vt100、または xterm など) である必要があります。
-------------	--

## コマンド デフォルト

仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に端末タイプが設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は vt100 です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

端末タイプの設定は、現在のセッションだけに適用されます。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、端末タイプを設定する例を示します。

```
switch# terminal terminal-type xterm
```

次に、デフォルトの端末タイプに戻す例を示します。

```
switch# terminal no terminal-type
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	ターミナルセッションの設定を表示します。

# terminal width

セッションの現在の行を表示する端末画面上の文字の列数を設定するには、**terminal width** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**terminal width** *columns*

**terminal no width**

## 構文の説明

<i>columns</i>	列の数。有効な範囲は 24 ~ 511 です。
----------------	-------------------------

## コマンド デフォルト

仮想端末の場合は、クライアント ソフトウェアとのネゴシエーション中に列の数が設定されます。これ以外の場合、デフォルト値は 80 列です。

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

端末の列数の設定は、現在のセッションだけに適用されます。  
このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、端末に表示する列の数を設定する例を示します。

```
switch# terminal width 70
```

次に、デフォルトの列数に戻す例を示します。

```
switch# terminal no width
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show terminal</b>	ターミナル セッションの設定を表示します。

# traceroute

IP アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute** コマンドを使用します。

```
traceroute {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source src-addr]
```

## 構文の説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IP アドレス。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) 使用する Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送) を指定します。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>default</b>	(任意) デフォルトの VRF を指定します。
<b>management</b>	(任意) 管理 VRF を指定します。
<b>source</b> <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IP アドレスを指定します。形式は、 <i>A.B.C.D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv4 アドレスです。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ネットワーク デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute 192.168.255.18 vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ping</b>	別のネットワーク デバイスへのネットワーク接続性を表示します。
<b>traceroute6</b>	IPv6 アドレスを使用してデバイスへのルートを調べます。

# traceroute6

IPv6 アドレスに到達するまでにパケットがたどるルートを調べるには、**traceroute6** コマンドを使用します。

```
traceroute6 {dest-addr | hostname} [vrf {vrf-name | default | management}] [source src-addr]
```

## 構文の説明

<i>dest-addr</i>	宛先デバイスの IPv6 アドレス。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。
<i>hostname</i>	宛先デバイスの名前。名前では、大文字と小文字が区別されます。
<b>vrf</b> <i>vrf-name</i>	(任意) <b>Virtual Routing and Forwarding (VRF; 仮想ルーティングおよび転送)</b> インスタンスを指定します。名前は最大 32 文字の英数字で、大文字と小文字が区別されます。
<b>default</b>	(任意) デフォルトの <b>VRF</b> を指定します。
<b>management</b>	(任意) 管理 <b>VRF</b> を指定します。
<b>source</b> <i>src-addr</i>	(任意) 送信元 IPv6 アドレスを指定します。形式は、 <i>A:B::C:D</i> です。デフォルトは、スイッチの管理インターフェイスの IPv6 アドレスです。

## コマンドデフォルト

なし

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、デバイスへのルートを調べる例を示します。

```
switch# traceroute6 2001:0DB8::200C:417A vrf management
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>ping6</b>	IPv6 アドレスを使用して別のデバイスとの接続を確認します。
<b>traceroute</b>	IPv4 アドレスを使用してデバイスへのルートを調べます。

# update license

既存のライセンスを更新するには、**update license** コマンドを使用します。

```
update license [filesystem: [//server/]] [directory] src-filename [target-filename]
```

## 構文の説明

<i>filesystem</i> :	(任意) ファイル システムの名前。有効な値は、 <b>bootflash</b> または <b>volatile</b> です。
// <i>server</i> /	(任意) サーバの名前。有効な値は、 <b>///</b> 、 <b>//module-1/</b> 、 <b>//sup-1/</b> 、 <b>//sup-active/</b> または <b>//sup-local/</b> です。2 個のスラッシュ (//) を含む必要があります。
<i>directory</i>	(任意) ディレクトリの名前。ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
<i>src-filename</i>	元のライセンス ファイルの名前。
<i>target-filename</i>	(任意) ターゲット ライセンス ファイルの名前。



(注) *filesystem://server/directory/filename* 文字列にスペースを含めることはできません。この文字列の各要素は、コロン (:) とスラッシュ (/) で区切ります。

## コマンド デフォルト

なし

## コマンド モード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)U1(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、ライセンスを更新する例を示します。

```
switch# update license bootflash:fm.lic fm-update.lic
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show license</b>	ライセンス情報を表示します。

# write erase

固定メモリ領域内の設定を消去するには、**write erase** コマンドを使用します。

**write erase [boot | debug]**

## 構文の説明

<b>boot</b>	(任意) ブート設定だけを消去します。
<b>debug</b>	(任意) デバッグ設定だけを消去します。

## コマンドデフォルト

固定メモリ内のすべての設定を消去します。

## コマンドモード

EXEC モード

## コマンド履歴

リリース	変更箇所
5.0(3)UI(1)	このコマンドが追加されました。

## 使用上のガイドライン

情報が破損しているなどの理由で使用できない場合は、このコマンドを使用して、固定メモリ内のスタートアップ コンフィギュレーションを消去できます。スタートアップ コンフィギュレーションを消去すると、スイッチが初期状態に戻ります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

## 例

次に、スタートアップ コンフィギュレーションを消去する例を示します。

```
switch# write erase
```

次に、固定メモリ内のデバッグ設定を消去する例を示します。

```
switch# write erase debug
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>copy running-config startup-config</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<b>show running-config</b>	スタートアップ コンフィギュレーションを表示します。



## INDEX

---

### B

- banner motd コマンド [FND-2](#)
- boot コマンド [FND-4](#)

---

### C

- cd コマンド [FND-6](#)
- clear cli history コマンド [FND-7](#)
- clear cores コマンド [FND-8](#)
- clear debug-logfile コマンド [FND-9](#)
- clear install failure-reason コマンド [FND-10](#)
- clear license コマンド [FND-11](#)
- clear user コマンド [FND-12](#)
- cli var name コマンド [FND-13](#)
- clock set コマンド [FND-15](#)
- clock summer-time コマンド [FND-16](#)
- clock timezone コマンド [FND-18](#)
- configure session コマンド [FND-19](#)
- configure terminal コマンド [FND-20](#)
- copy running-config startup-config コマンド [FND-25](#)
- copy コマンド [FND-21](#)

---

### D

- databits コマンド [FND-26](#)
- debug logfile コマンド [FND-27](#)
- debug logging コマンド [FND-28](#)
- delete コマンド [FND-29](#)
- dir コマンド [FND-31](#)

---

### E

- echo コマンド [FND-33](#)
- end コマンド [FND-34](#)
- exec-timeout コマンド [FND-35](#)
- exit (EXEC) コマンド [FND-37](#)
- exit (グローバル) コマンド [FND-38](#)

---

### F

- feature interface-vlan コマンド [FND-39](#)
- feature lacp コマンド [FND-40](#)
- feature uddl コマンド [FND-41](#)
- find コマンド [FND-42](#)
- format コマンド [FND-43](#)

---

### G

- gunzip コマンド [FND-44](#)
- gzip コマンド [FND-45](#)

---

### H

- hostname コマンド [FND-47](#)

---

### I

- install all コマンド [FND-48](#)
- install license コマンド [FND-51](#)

---

### L

- line console コマンド [FND-53](#)

line vty コマンド [FND-54](#)

---

## M

modem init-string コマンド [FND-56](#)

modem in コマンド [FND-55](#)

modem set-string user-input コマンド [FND-58](#)

move コマンド [FND-59](#)

---

## P

parity コマンド [FND-61](#)

ping6 コマンド [FND-66](#)

ping multicast コマンド [FND-64](#)

ping コマンド [FND-62](#)

---

## R

reload コマンド [FND-68](#)

rmdir コマンド [FND-69](#)

run-script コマンド [FND-70](#)

---

## S

save コマンド [FND-72](#)

send コマンド [FND-73](#)

session-limit コマンド [FND-75](#)

setup コマンド [FND-74](#)

show banner motd コマンド [FND-76](#)

show boot コマンド [FND-77](#)

show cli alias コマンド [FND-78](#)

show cli history コマンド [FND-79](#)

show cli variables コマンド [FND-81](#)

show clock コマンド [FND-82](#)

show configuration session コマンド [FND-83](#)

show copyright コマンド [FND-84](#)

show debug logfile コマンド [FND-85](#)

show environment コマンド [FND-86](#)

show feature コマンド [FND-88](#)

show file コマンド [FND-90](#)

show hardware internal cpu-mac コマンド [FND-92](#)

show hardware internal pci コマンド [FND-94](#)

show hostname コマンド [FND-95](#)

show incompatibility system コマンド [FND-96](#)

show install all コマンド [FND-97](#)

show inventory コマンド [FND-98](#)

show license host-id コマンド [FND-101](#)

show license usage コマンド [FND-102](#)

show license コマンド [FND-99](#)

show line コマンド [FND-104](#)

show module コマンド [FND-106](#)

show processes cpu コマンド [FND-110](#)

show processes log コマンド [FND-112](#)

show processes memory コマンド [FND-114](#)

show processes コマンド [FND-108](#)

show running-config diff コマンド [FND-118](#)

show running-config コマンド [FND-116](#)

show sprom コマンド [FND-120](#)

show startup-config コマンド [FND-123](#)

show switchname コマンド [FND-125](#)

show system cores コマンド [FND-126](#)

show system reset-reason コマンド [FND-127](#)

show system resources コマンド [FND-129](#)

show system uptime コマンド [FND-130](#)

show tech-support コマンド [FND-131](#)

show terminal コマンド [FND-134](#)

show version コマンド [FND-135](#)

sleep コマンド [FND-137](#)

slot コマンド [FND-138](#)

speed コマンド [FND-140](#)

stopbits コマンド [FND-141](#)

switchname コマンド [FND-142](#)

system cores コマンド [FND-143](#)

system startup-config unlock コマンド [FND-144](#)



---

**T**

tail コマンド [FND-145](#)  
terminal length コマンド [FND-147](#)  
terminal session-timeout コマンド [FND-148](#)  
terminal terminal-type コマンド [FND-149](#)  
terminal width コマンド [FND-150](#)  
traceroute6 コマンド [FND-152](#)  
traceroute コマンド [FND-151](#)

---

**U**

update license コマンド [FND-153](#)

---

**W**

write erase コマンド [FND-154](#)

